

◆◇◆ もくじ ◆◇◆



はじめに

第1章 架け橋プログラムとは

1. 保幼小の架け橋プログラムがめざすもの	4
2. 架け橋プログラムの進め方のポイント	5
3. 架け橋期のカリキュラム作成に向けた長期の計画	7

第2章 モデル地域の取組

1. 架け橋プログラムを進めるための体制作り	9
2. 架け橋プログラム 年間計画	10
3. めざす子ども像の作り方	11
4. 架け橋期のカリキュラムの作り方	13
5. 5歳児の取組(架け橋期のカリキュラムの事例より)	19
6. 入学式後の3日間(スタートカリキュラム)	23
7. 小学1年生の生活科実践	
① 第1・2学年 生活科年間指導計画	26
② 単元名「きれいにさいてね」	27
③ 単元名「がっこう だいすき」	30
8. 子どもの主体性を大切にしたい、互惠性のある交流活動	
① 交流活動の進め方 ねらいの設定から振り返りまで	33
② 一日入学	36
③ 園どうしの交流活動	38
④ 交流活動計画書	39
9. 互いの教育の理解を図る研修会	
① [互いの教育の理解] 保育を見合っの園内研修	43
② [保幼小連絡会Ⅰ] 秋の自然物を使った遊び	46
③ [保幼小連絡会Ⅱ] 幼児期の遊びを通した学びと教科とのつながり	47
④ [保幼小連絡会Ⅲ] 保育・授業実践から生まれてくる課題意識をもとに	49
⑤ [保幼小連絡会Ⅳ] 架け橋期のカリキュラムを使った振り返り	50
10. 幼保支援課 HP 保幼小連携・接続に係る内容の紹介	51



DVDの活用方法を紹介します！

子供をまんやかにした
話し合いを通して学びをつなぐ

架け橋プログラムの取組

～架け橋期の教育の充実に向けて～

高知県教育委員会事務局幼保支援課
令和6年3月

全編60分
こんなときにご活用ください
詳しくは裏面を！

行政 → 架け橋って何？ → **第1章へ**

保育者 → どうやって取り組むの？ → **第2章へ**

小学校教員 → どんなよさがあるの？ → **第3・4章へ**

再生方法

再生ボタン

本のマークを押すと、
チャプターが表示されます

選ぶとチャプターごとに
再生できます

高知県教育委員会事務局幼保支援課

本ガイドブックは、架け橋プログラムの取組を収録したDVD（R6年3月に配付）と併せて活用していただくことで、取組についてより具体的にイメージしていただけます。

DVDの全内容はYoutubeでもご覧いただけます。幼保支援課のHPからもアクセスできますので、ぜひ一度のぞいてみてください。

子供をまんやかにした
話し合いを通して学びをつなぐ

架け橋プログラムの取組

～架け橋期の教育の充実に向けて～

高知県教育委員会事務局幼保支援課
令和6年3月

こんな活用ができます！

これから架け橋プログラムに取り組み始めるとき → **第1章へ**

架け橋期のカリキュラムを園・小学校が共に作成・見直ししたいとき → **第2章へ**

架け橋プログラムでの実践を知りたいとき → **第3章へ**

全編60分

チャプター

オープニング

第1章 幼児教育と小学校教育をつなぐ 架け橋期の教育 45分

幼稚園教育を充実した幼児教育と小学校教育を連携させ、まんやかな学びを実現するための実践例について紹介します。

第2章 架け橋プログラムの進め方 15分

子供の姿をまんやかに、互いの言葉や行動を喜びあうことからスタートする。架け橋期のカリキュラムづくりについて紹介します。

第3章 架け橋期の教育の充実に向けて 学びをつなぐ 15分

子供の姿をまんやかに架け橋期のカリキュラムづくりの実践例を紹介します。

第4章 総集・まとめ 15分

職員、保護者、地域住民等がそれぞれの立場から架け橋期の学びにつなぐ実践例について紹介します。

エンディング

現場の先生方はまずは第3章をご視聴ください。架け橋期のカリキュラムに基づいた実践を収録しています。ガイドブックの実践例と併せて見ていただくとより効果的です。

DVDは4つのチャプターに分かれています。研修内容に併せて部分的に見ていただくこともおすすめです。

★園内研修や校内研修、保幼小の合同研修等でぜひご活用ください



架け橋プログラムとは





1. 保幼小の架け橋プログラムが目指すもの

「架け橋プログラム」は、①子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい②主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で③全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

これまでの接続期（5歳児後半～スタートカリキュラム期）を2年間に拡大



重要ポイント

①子どもに関わる大人が立場を越えて連携

大人の連携なくして、子どもの学びはつながりません

★保幼小はもとより、家庭、地域、関係団体、教育行政も含めた様々な関係機関の連携が重要となります。特に、幼児教育と小学校教育は、他の学校段階等間の接続と比較して、カリキュラムの特性（経験カリキュラムと教科カリキュラム）や教育方法（遊びを通じた総合的な学びと教科教育を中心とした学び）など、様々な違いを有しています。また幼児教育施設間の連携においても、設置者（公立・私立）の違い、多様な施設類型の存在などがあるため、各市町村の教育行政が部局を越えて連携を図り、幼児教育施設と小学校、さらには幼児教育施設間で「つながることのできる場」を設定していくことが大変重要となります。

②主体的・対話的で深い学びの実現

保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領をより実質的なものへ

★カリキュラムや教育方法の違いはあっても、「子どもの育ち」や「子どもの学び」という視点で見ると、幼児教育施設と小学校はつながっています。現行の小学校学習指導要領でも、「幼児期終わりまでに育てほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること」と示されているように、幼児期に培われた資質・能力の基礎を教科教育へつなげていくことが求められています。また、幼児教育施設においては、遊びを通して資質・能力の基礎を培うことのより一層の充実が求められています。

決して小学校教育の前倒してはならないことに留意しましょう

③全ての子どもに学びや生活の基盤を育む

★各小学校区においては、設置者や施設類型にかかわらず、全ての5歳児がこの取組の対象であるため、「①子どもに関わる大人が立場を越えて連携」がより重要となります。

2. 「架け橋プログラム」の進め方のポイント

「架け橋プログラム」とは、**架け橋期(5歳児から1年生の2年間)の教育の充実を図る**ため、保幼小の先生、保護者や地域住民等が連携・協働して、**全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指す取組**のことです
 ⇒保幼小の先生が**子どもをまんなかにして互いの教育内容を話し合う活動**を通して、協働してカリキュラムを作成していきましょう

本資料は、R4年度に県教育委員会が文部科学省から受託して実施したモデル事業の実践を踏まえ、取組の進め方の参考としてまとめたものです

(参考資料)・R4.3.31文部科学省「**幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)**」
 ・R5.2.27中央教育審議会初等中等教育分科会「**学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について**」

1 市町村における意思決定

- 所管や部局の枠を越えて取り組むことについて、市町村として意思決定する
- 各所管課で**担当者を配置**する

2 園・校との合意の形成

- 市町村担当者が各園・校に趣旨を説明するなどして、設置者(国公立・私立)、施設類型(保育所・幼稚園・認定こども園等)に関わらず、**校区内のすべての施設**と「子どもをまんなかにして互いの教育内容を率直に話し合う取組」を進めることについて**合意を得る**

3 市町村による「話し合い」の体制整備

- 市町村が**事務局の役割**を担う(学校教育の専門的知見を有する**教育委員会が中心**となり促進体制の構築を図る)
- 市町村の事務局で、**ビジョンをもって進める計画**を立てる(例)1年目はめざす子ども像を作成 2年目…等
- 施設と相談のうえ、園長と校長・担任同士等による会議体の設置やカリキュラム作成に向けた計画を立てる

4 「子どもをまんなかにして互いの教育内容を話し合う」取組開始

すでに実施している会を利用しましょう。



(1) 校区内の「めざす子ども像」とそこに向けた0歳児からの「育みたい力」を決める ※すでにあるところは確認し、共有する

- 校区内の子どもの「よさ」と「課題」を出し合い、**どのような子どもを育てたいか**「めざす子ども像」を決める(すでにあれば確認と共有)
 - ・市町村の方針や園・小学校の教育目標、子どもの実態、保護者や地域の願いなどを踏まえて決める
 - ・コミュニティスクールの「めざす姿」など既存のものを活用することも可能
- 「めざす子ども像」に向けた**0歳児から育みたい力**を決める(すでにあれば確認と共有)
 - ・「めざす子ども像」に向け、各年齢(0歳児～5歳児～1年生～6年生…)ではどのような資質・能力を育むのかを出し合い、決めていく。
 - ※0から18歳(12歳)までを見通した学びの連続性にも配慮する

- ・学校運営協議会
- ・保幼小連絡会
- ・校区内保幼小合同研修
- ・授業研究
- ・園内研修への参加(協議も含む)
- ・交流活動などの打合せ実施・振り返りの会
- ・一日入学の振り返りの会
- ・引き継ぎ会

(2) 互いの教育内容を話し合う **←ここが重要** 「まずは、取組の「年間計画」を作成する

- 教育内容や指導方法を伝え合い、幼児期の学びが小学校の学習にどのようにつながっているか互いに理解を深める
 - ・校内研修・園内研修の相互参加などにより、実際の子どもの姿の事例を通して話し合うこと
 - (例)・**5歳児の園内研修に小学校が保育参観・協議まで参加しアドバイザー等を招聘**して子どもの姿を通して話し合う
 - ・共通の教材(「夏の遊び」「秋の遊び」「数量や図形」「言葉」等)を題材にして、子どもの姿から共通点や相違点等を話し合う
- 「めざす子ども像」に向けて、子どもたちに必要な「園での活動や経験」(指導計画等)や「単元構成等」(教育課程等)は何か、**共通の視点をもって**話し合う

(3) 話し合いを踏まえて「架け橋期(5歳児～小1の2年間)のカリキュラム」を協働して作成する

- これまでの話し合いや実践を踏まえて、事務局が中心となって(2)を繰り返しながら、「架け橋期のカリキュラム」に落とし込む
- カリキュラム完成**
- モデル地域の「架け橋期のカリキュラム」を活用しつつ、園と小学校が協働して、「架け橋期のカリキュラム」を作成することもできます。**

5 カリキュラムを実践・評価・改善していく取組の定着

- 「子どもをまんなかにして互いの教育内容を話し合う」を継続し、カリキュラムを実践・評価・改善していく**仕組みを定着させる**

話し合い
(評価・改善)



市町村自治体の役割
※下記4以降も支援していくようにする

『「架け橋プログラム」の進め方のポイント』の具体的な取組

1

①各部署の担当者が顔を見合わせて意志の確認をする

◆公立・私立全て ◆保育所・幼稚園・認定こども園全て

②小学校と校区内の5歳児が在籍する全ての園を確認し、各施設に架け橋プログラムに取り組むことを伝え、合意を得る

・話す内容：架け橋プログラムの目的・意義・よさ等

参考資料：「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」R4文部科学省

※1校区に複数園ある場合は、小学校と幼児教育施設とで校区内の施設名を共有しておく

※直接出向いて伝える場合は、各部署の担当者が共に説明をするとうい

市町村自治体も含め、地域全体で架け橋プログラムを進めていくことに合意

3

④下記**4**以降の取組を、

・いつ、どこで、何を、どのように行うのか

・1年目はどこまでするのか、2年目は・・・を担当者で相談して決める

⑤各施設の管理職と相談の上、会議体を設置する

(今ある会議体で使えるものを利用しましょう)

・管理職で話し合う会議 ・5歳児、1年生の担任が話し合う会議

・幼児教育施設と小学校の教員が共に学ぶ場 等

単発の計画にならないよう、長期を見通して計画する。(担当が変わるときに取組が途切れないように)

年間計画に落とし込む

p.7へ

p.9 p.10へ

「子どもをまんなかにして互いの教育内容を話し合う」取組開始

4

(1) 校区内の「めざす子ども像」とそこに向けた0歳児からの「育みたい力」を決める ※すでにあるところは確認し、共有する

(2) 互いの教育内容を話し合う ←ここが重要

(3) 話し合いを踏まえて「架け橋期(5歳児～小1の2年間)のカリキュラム」を協働して作成する

モデル地域の「架け橋期のカリキュラム」を活用しつつ、園と小学校が協働して、「架け橋期のカリキュラム」を作成することもできます。

p.11へ

p.43～

p.13へ

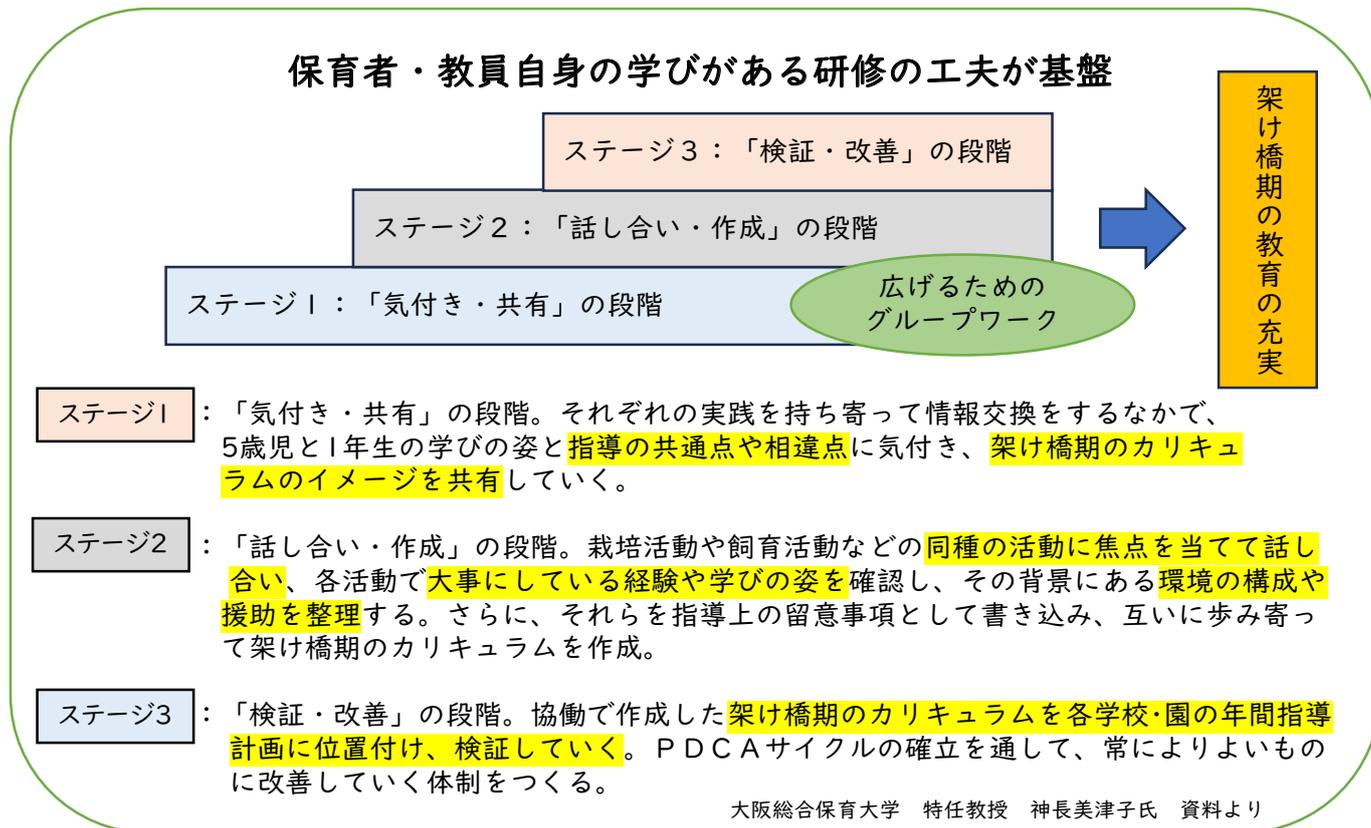
カリキュラムを実践・評価・改善していく取組の定着

5

p.50へ

3. 架け橋期のカリキュラム作成に向けた長期の計画

架け橋期のカリキュラム作成に向けて、どのくらいの期間かけるとよいのでしょうか。取り組み始めて1年目に作成するのは難しいと思われる学校区も少なくないでしょう。作成には「**保育者・教員自身の学びがある研修**」が欠かせません。しっかりと保幼小の学びをつなぐために、架け橋期の子ども姿を共有し、3年を目安に作成するのもよいでしょう。計画的に着実に進めていきましょう。



	ステージ1：「気付き・共有」 (1～2年目)	ステージ2：「話し合い・作成」 (2～3年目)	ステージ3：「検証・改善」
	めざす子ども像作成	架け橋期のカリキュラム作成	カリキュラムの実施・検証・改善へ
の保育者・教員自身の学びがある研修	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開保育公開授業の協議までの相互参加 (p.43～) ◆互いの教育の理解を図る研修 (p.46～) (同種の活動等の研修) 		

どの活動を通して相互の教育の理解を図っていくのかを校区で考え、できるところから始めていきましょう

各校区でどのステージにあたるのかを検討しながら進めていきましょう





モデル地域の取組



1. 架け橋プログラムを進めるための体制づくり(春野東小学校区を参考に)

架け橋プログラムに取り組む際に、まずは体制づくりを考えてみましょう。従来ある会議と兼ね合わせて行うことも可能です。自治体における保幼小連携・接続担当者が中心となって「企画運営会議」を行うなど、架け橋プログラムをどのように進めていくかの年間ビジョンを決め、見直しをもって実行していくとよいでしょう。

企画運営会議 (自治体)

架け橋プログラム推進担当者
(各自治体の保幼小連携・接続の担当者)

※架け橋コーディネーター(幼児教育施設と小学校等の施設をつなぐ役割を担う者)や県保幼小連携アドバイザー等に協力を依頼することも可能です。



自治体による年間のビジョンをもとに校区のめざす子ども像や架け橋期のカリキュラムの作成・振り返り、連絡会・園内研修・校内研修等を含む校区の年間計画を作成する。

カリキュラム開発委員会 (年1~2回程度)

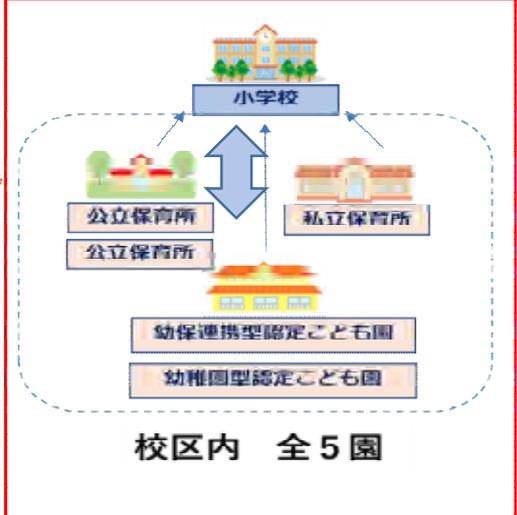
園・小学校管理職、
架け橋コーディネーター
幼児教育アドバイザー、保護者 等



担当者会 (3か月に1回程度)

各施設の連携・接続担当者

年間のスケジュールの調整等を行ったり、実践を共有したりする。



連絡会 (3か月に1回程度)

5歳児、1年生担任、連携・接続担当者
管理職等、架け橋コーディネーター等

互いの教育内容を理解するための話し合いを行う。
(p.46~)



公開保育・研究授業

幼児教育施設職員、小学校教員
架け橋コーディネーター等

小学校教員が保育を参観したり、保育者が授業を参観したりして、共通の視点やねらいについて子どもの姿をもとに語り合う。(p.43~)

2. 架け橋プログラム 年間計画



小学校区で計画を共有しておくことと取組を進めやすくなります

令和7年度 架け橋プログラム 年間計画(例)

実施園・校		春野東小学校・春野中央保育園・春野平和保育園・うららか保育園・へいわ幼稚園・春野学園				
月	実施日	項目	内容等	参加者	実施場所	講師
4		○ 開発委員会 ※中学校区の連絡協議会と兼ねて開催	○ カリキュラム実践の確認	・ 1小5園の管理職		・ 幼保支援AD ・ 保幼小連携AD ・ 架け橋コーディネーター等
		○ 担当者会	○ 年間スケジュールの確認	・ 担当者		
5		○ 1年生公開授業	入学当初の小学校の授業を知ることで、子どもの様子を知るだけでなく、小学校教育への見通しをもつことにつながります。	・ 5歳児担任、管理職等 ・ 自治体		
6		○ 第1回連絡会	○ 教材研究 (例「数量・図形」をテーマに幼児期の遊びの中の学びと小学校の算数科のつながりを考える)	・ 5歳児担任、担当者等 ・ 1年生担任、担当者等 ・ 自治体		
7						
8		○ 第1回 5歳児公開保育	○ () 園	・ 保育者、小学校教員等 ・ 自治体		・ 幼保支援AD
9		○ 第2回連絡会	○ 交流活動に向けて	・ 5歳児担任、担当者等 ・ 1年生担任、担当者等 ・ 自治体		
10		○ 第1回交流活動	○ 1年生が園へ	・ 5歳児担任、担当者等 ・ 1年生担任、担当者等 ・ 自治体		・ 幼保支援AD ・ 保幼小連携AD
11		○ 第2回交流活動	○ 5歳児が小学校へ	・ 5歳児担任、担当者等 ・ 1年生担任、担当者等 ・ 自治体		
12		○ 第2回 5歳児公開保育	○ () 園	・ 5歳児担任、担当者等 ・ 1年生担任、担当者等 ・ 自治体		・ 幼保支援AD
1		○ 1日入学	○ 5歳児が小学校へ	・ 5歳児担任、担当者等 ・ 1年生担任、担当者等 ・ 自治体		
		○ 第3回連絡会 ※1日入学と兼ねて開催	○ カリキュラムの振り返り等			
2		○ 開発委員会 ※中学校区の連絡協議会と兼ねて開催	○ 実践の共有、カリキュラムの振り返り等	・ 1小5園の管理職等 ・ 自治体		・ 幼保支援AD ・ 保幼小連携AD
3						

3. めざす子ども像について

～0歳児からの具体的な姿も表しながら～

【目的】 架け橋期を中心として、0歳児から12年間の育ちと捉え、校区（又は市町村）でどのような子どもを育てたいのかを明確にすることで、そこに関わる全ての大人が同じ目的をもって子どもの資質・能力を育む意識をもつ。

【ポイント】 ・校区内の子どものよさや課題など実際の子どもの姿から考えていく。

【準備する物】 グループ：模造紙1枚、カラーマジックペン、個人：付箋4色（3セット）、ネームペン

【所要時間・人数等】 ・60分程度 ・校区内単位又は5人程度

※管理職が出席することでめざす子ども像が決定しやすい

◆始める前に 参加しない職員にも下記①②の付箋を書いてもらっておく。協議時間によっては参加者も事前を書いて持参するとよい。

◆進め方

1. ネームペンを使って付箋に自分の意見を端的に書く。（1人2色×3セット）

〔付箋〕①桃色：自園・校の子どものよさ ②青色：自園・校の子どもの課題

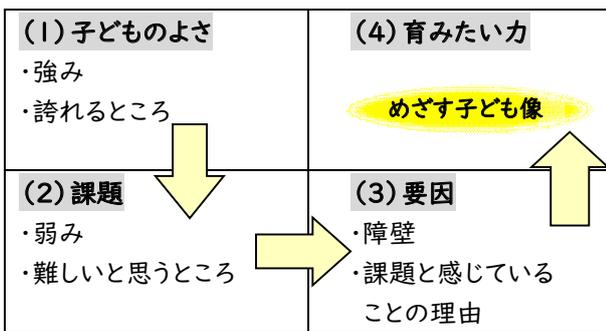
2. 付箋の意見に言葉を足しながら発表する。似た内容は同じところに貼ったり、発言内容を追記したり、グルーピングしタイトルを付けたりして、可視化しながら(1)～(4)（◆協議のイメージ参照）の順に進める。

※(3)(4)は、違う色の付箋を使ったりそのまま模造紙に書いたりして、グルーピングしながら進める。

3. (4)の意見の中から特に育みたい力にマーク(3つ程度)を付ける。

4. マークを付けた内容からめざす子ども像を決める。

◆協議のイメージ



◎複数のグループがある等、時間内に決めることができなかった場合の取りまとめ例

- ・自治体を取りまとめ、後日各園・小に確認をとる
- ・後日の管理職の会で決定する



[～めざす子ども像が決まったら～]

めざす子ども像に向けた、0歳児から小学6年生までの具体的な姿を考える

◆進め方

1 各施設で、校区のめざす子ども像に向けた、各年齢・学年（2学年程度でもよい）の具体的な姿を考える（シートがあるとよい）

2 各施設で考えてきたものを持ち寄り、出し合いながら決めていく

◆シートのイメージ

めざす子ども像「○○○○○○○○○」								
各年齢の具体的な姿								
0・1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	1年生	2年生	3・4年生	5・6年生
				架け橋期				

令和6年度 架け橋プログラム事業 春野東小学校区：めざす子ども像「主体的にチャレンジし、学びを将来につなぐことができる子ども」
 ～学びの芽生え・学力（資質・能力）向上に向けて～

【子どもの実態から、今後育んでいきたい力】

知識・技能（の基礎）		思考力・判断力・表現力等（の基礎）		学びに向かう力・人間性等	
A) チャレンジ精神 ・物事に主体的に取り組む力 ・他人に働きかけ巻き込む力 ・目的に向かって行動する力 ・あきらめずに最後まで頑張る力		B) 自尊・他尊 ・一人一人のよさに気づき、認める力 ・自分は頑張ることができるとい感情、自信 ・周囲から愛されているという感情 ・自分のことが好きという感情		D) 郷土愛 ・地域の人等自分の生活に関係の深い人々とふれあい、親しみをもつ。 ・地域の人々との交流を通して、地域のよさや課題について学ぼうとする力	
C) コミュニケーション力 ・人と関わる力 ・自分の意見(想い)を分かりやすく伝える力 ・相手の意見(想い)を聴く力 ・意見の違いを理解する力		E) 自己管理能力 ・自分の生活に責任を持って取り組む力 ・自分の生活に責任を持って取り組む力 ・自分の生活に責任を持って取り組む力			

【学びを支える力とめざす子ども像につながる具体的な姿（・）】

年齢	保育園・幼稚園・認定こども園等			小学校	
	前期 0歳	中期 1歳	後期 2歳	低学年 1年生	高学年 3・4年生
知識・技能（の基礎）	身近なものに興味・関心をもつ				
	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や生活の変化に気付く。 ・友達や先生と一緒に挑戦しようとする。 ・友達や保育者と一緒に遊ぶ。 ・生活や活動に見通しをもち、自信をもって行動しようとする。 ・幼前期の経験をもち、思いを伝えようとしている。 ・興味・関心が広がる。 				
思考力・判断力・表現力等（の基礎）	安心して自己発揮する				
	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の人の存在を感じる。 ・不快を感じる。 ・特定の人の見守られ、認められ、安心感を得る。 ・行動を共有(まね)する。 ・身の回りのことを自分でやってみようとする。 ・自分のやりたいことを主張する。 ・自分の気持ちを何とか調整する。 				
学びに向かう力・人間性等	身近な人に自分の思いを表現する				
	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の人の言葉や体の動きで思いを表す。 ・言葉と感情をつなげる。 ・生活の中の言葉が分かる。 ・家族や親しい人との会話を楽しむ。 ・相手に分かりやすく話すことの大切さに気付く。 				
<p style="text-align: center;">地域に愛着をもって関わる</p>					
<p>さまざまな人やものと触れ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の人のやさしさや愛情を感じ、コミュニケーションがとれる。 ・言葉の響きを楽しむ。 ・身近な大人や友達や自然と関わる。 ・地域の人や自然、行事を知る。 ・あこがれをもつ。 ・地域の人や物に親しみをもって関わる。 					
<p>自分や集団の成長を感じ、自信をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達によさに気づき、相手を受け入れ、尊重しようとしている。 ・多様性、多様な表現を認めている。 ・自分や友達の成長に気づき発表している。 ・クラスや学校の一員として役に立つ喜びを感じる。 					
<p>進んで学習に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かし、見直しをもって学習に取り組んでいる。 ・相手に伝わるように話している。 ・自分の考えを伝えたり、友達のことを聞いていたりして学びを深めている。 ・既習事項を生かし、思いをもつて学習に取り組んでいる。 ・必要情報を得るために、どうすればいいかを考えている。 					
<p>自分や友達の成長に気づき、相手を認め合ったり、励まし合ったりしながら自分や集団の成長を感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体を巻き込んで取り組んでいる。 ・クラスの役に立つことを考え、行動している。 ・必要情報を取捨選択している。 ・認め合ったり、励まし合ったりしながら自分や集団の成長を感じている。 					
<p>課題解決に向けて、自分たちができることを考え、地域と関わろうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて、自分たちができることを考え、地域と関わろうとしている。 ・地域のよさを生かしながら、課題に目を向け解決を図っている。 ・地域の人やものとの関わりを通して、課題解決を図っている。 					

4. 架け橋期のカリキュラムの作り方

～これまでの保幼小の職員による子どもの姿をもとにした話し合い～

【目的】 保幼小が相互理解を深め、教育課程や指導計画等を具体化できるよう、共通の視点をもって架け橋期のカリキュラムを作成する。

【ポイント】 保幼小が顔を見合わせ、子どもの姿をもとにした話し合いを積み重ね、作成する。

【準備する物】 保幼小で、子どもの姿をもとに話し合ってきた模造紙等

◆進め方

話し合いが行われていない場合は、まずは p.43～等を複数回実施してから作成しましょう。

重要



1. 項目を決める。

ポイント ① 架け橋期2年間の生活や学びが、つながりのある連続したものと捉えやすいよう、園と小学校は、**同じ項目**にする。

ポイント ② 各校区等の「めざす子どもの姿」をもとに、どのような項目があるか、幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版) (R4.3.31 文部科学省)や、モデル地域の架け橋期のカリキュラムの項目等を参考にするとよい。

園	架け橋期のカリキュラム	小学校
遊びや学びのプロセスで大切にしたい経験	遊びや学びのプロセスで大切にしたい経験	学びのプロセスで大切にしたい経験
めざす子どもの姿	めざす子どもの姿	めざす子どもの姿
予想される活動	予想される活動	生活科を中心とした主な活動
保育者の関わり	保育者の関わり	他教科との関連
環境構成	環境構成	先生の関わり
家庭や地域との連携	家庭や地域との連携	環境作り
行事等(子供・先生)	行事等(子供・先生)	家庭や地域との連携
		行事等(子供・先生)

R6モデル地域架け橋期のカリキュラムより (pp.15-18)

ポイント ③ 個別最適な学びのヒントは幼児教育にあるともいわれることから、幼児教育の基本である「環境構成」「環境作り」、「保育者の関わり」「先生の関わり」は項目立てするとよい。

以下、項目をモデル地域と同様 (pp.15-18) にした場合とする

2. カリキュラムにおける「めざす子どもの姿」を考える。

① 保幼小で架け橋期の具体的な子どもの姿 (p.11下 参照) をもとに、発達や学びの特性を考慮しながら、各時期の「めざす子どもの姿」を考える。

ポイント 複数園ある場合は、各園の5歳児の年間指導計画のねらい等の共通点を確認し合いながら考える。

② 幼児教育施設と小学校で共有し合いながら、決めていく。

※以下全て、保幼小で共有し合いながら作成する

双方の教育を理解することも架け橋プログラムにおける取組で重要となるため、常に共有し、協働しながら作成することが大切

3. 「遊びや学びのプロセスで大切にしたい経験」を考える。

- ① 年間で何を表していくとよいかを考え、柱を決める。

モデル地域の幼児教育施設

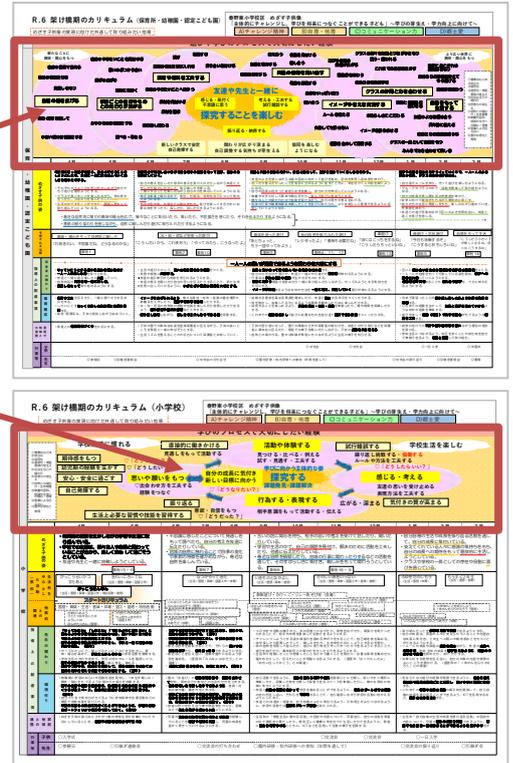
「探究を楽しむ」を中心に「7つの大切にしたい経験」を柱とした。

モデル地域の小学校

「探究する」を中心に「生活科の学びのプロセス」を柱とした。

- ② 柱を中心に、そのとき見られる具体的な資質・能力を周りに記載していく。

ポイント ①②共に、公開保育の協議の模造紙や「同種の活動等の話し合い」(p.46)の模造紙にある経験や育ちつつある力(資質・能力)等を参考にする。



R6 モデル地域架け橋期のカリキュラムより (pp. 15-18)

4. 「予想される活動」「生活科を中心とした活動等」を考える。

ポイント ① 保幼小で研修した、同種の活動等を書き込むのもよい。

ポイント ② 小学校:各校の生活科年間単元計画(p.26)を参考にする。

5. 「環境構成」「環境作り」、「保育者の関わり」「先生の関わり」を考える。

- ① 「同種の活動等の話し合い」等で共有した、大事にしている経験や学びの姿の背景にある「環境構成」や「関わり」を整理して記載する。

ポイント 幼児教育施設 年間指導計画も参考にする。

小学校 幼児教育施設の「環境構成」「保育者の関わり」やその意図を知り、小学校の授業実践に活かしていく。

複数園の場合は、各施設の年間指導計画に架け橋期のカリキュラムを反映する

※モデル地域では「7つの大切にしたい経験」を自園の年間指導計画の内容と照らし合わせ、ないものは追記した。また7つの経験が表されている部分に下線を引き、校区の架け橋期のカリキュラムとの関連を明確にして、実践していきやすいものにした



完成後

年度当初:2年間のカリキュラムを確認し実践

- 幼児教育施設は小学校を見通した教育・保育となるよう、小学校は幼児教育を生かした授業となるよう、互いのカリキュラムにも目を通し、実践する

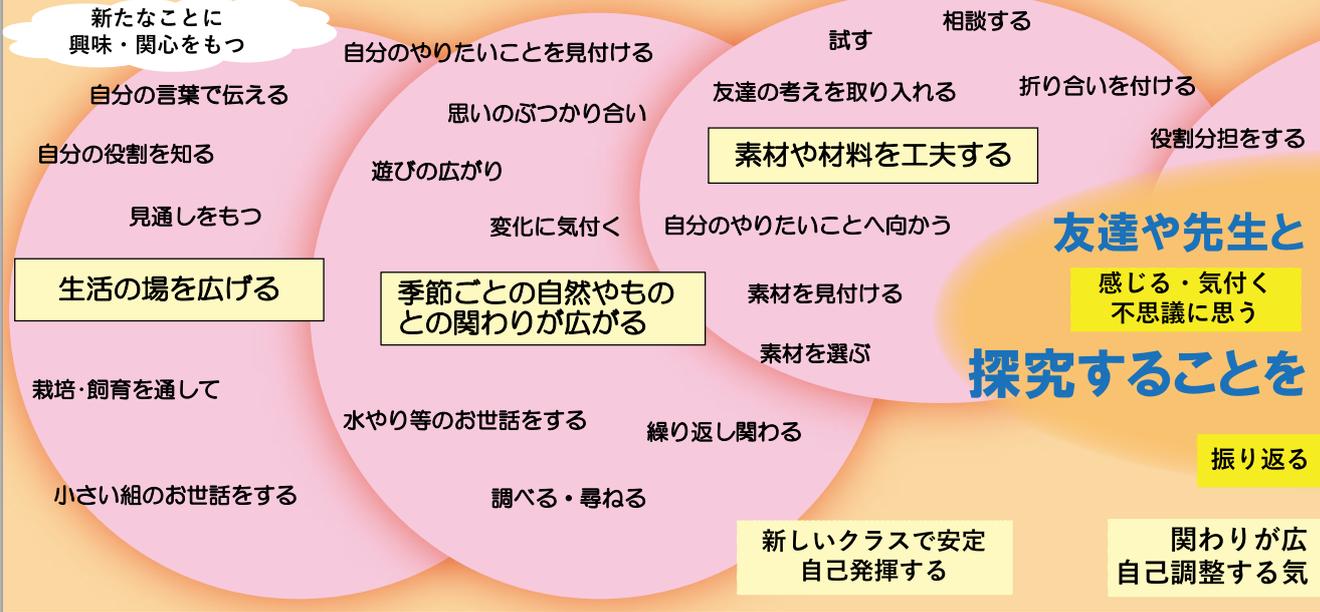
年度終わり:保幼小が集まり、振り返りを行う

- 使ってみてどうだったか(成果・課題等)振り返り、次年度に活かせるようにする

R6 架け橋期のカリキュラム（保育所・幼稚園・認定こども園）

めざす子供像の実現に向けた共通して取り組みたい指導

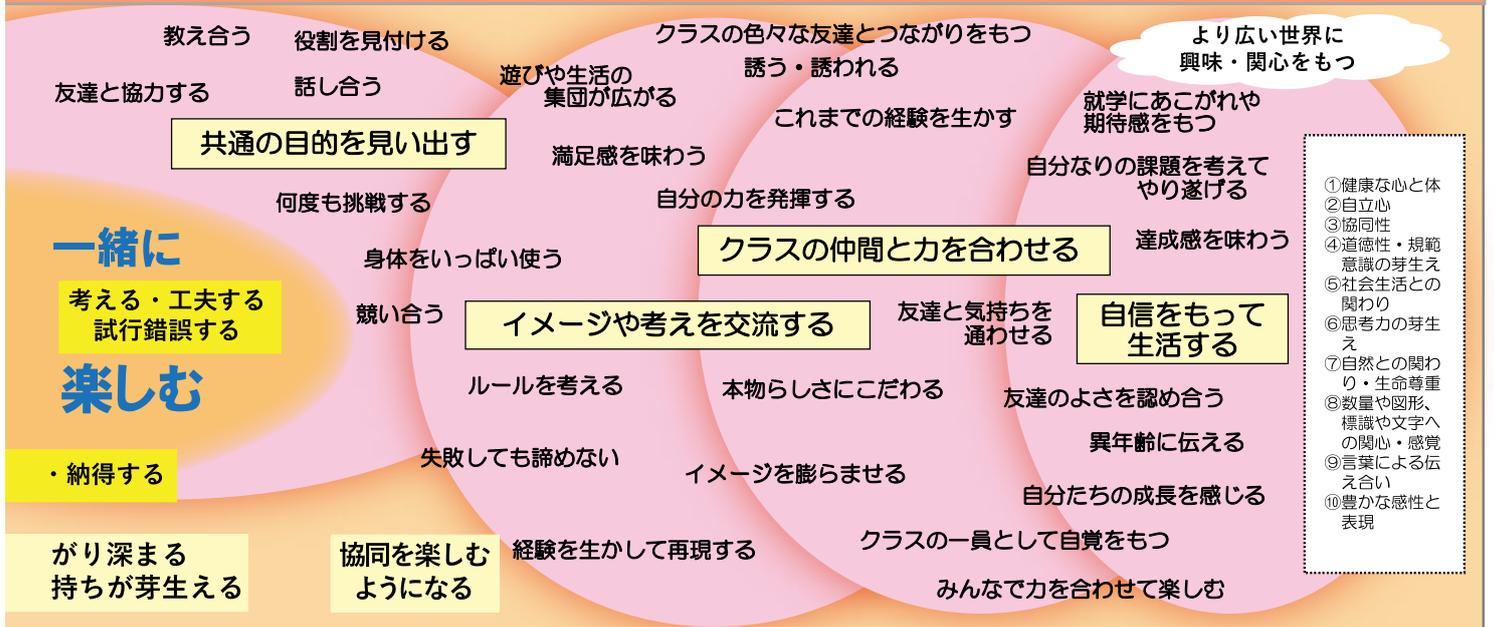
遊びや学びのプロセスで



保育所・幼稚園・認定こども園

		4月	5月	6月	7月	8月	
めざす子供の姿		<p>年長児になった喜びを感じ、自分のできることをしようしたり、友達と一緒に取り組んでいく楽しさを感じたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれのイメージや思いを出しながら自分たちで遊びを進めようとする。 クラスで過ごすことを楽しみながら、安心感をもったり、つながりを感じたりしていく。 生活の中ですることが分かり、見通しをもって取り組んでいくようになる。 		<p>友達同士で刺激し合いながら自分なりの目的をもって遊び、自分の力を伸ばしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを出したり相手の考えを受け入れたりしながら友達と工夫したり協力したりして、遊ぶ楽しさを感じる。 一緒にすることを楽しみながら自分の力を伸ばしていくようになる。 身近な事象と関わる中で、変化、仕組み、法則性などについて気付くようになる。 ものの色や形、性質などに興味をもち、遊びを楽しむために必要な物を作ったり、探したり、試したりするようになる。 			
	予想される活動	<p>興味・関心をもって自然物に親しむ</p> <p>「わあきれい。不思議だね。どうなるのかな」</p> <p>事例1</p>		<p>水・砂・泥などを使った遊び</p> <p>「こうしたいから、これ使おう」「やってみたら、こうなったよ」</p> <p>事例2 事例10</p>			
指導上の配慮事項	保育者の関わり	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> やっていこうとする姿や気持ちを認め励ます。 一人一人の楽しみ方を受け止める。 友達と一緒に遊ぶ楽しさに共感していく。 自然物等の気付きを一緒に楽しむ。 見通しをもって取り組めるようにする。 		<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びについて、互いの話を聞き合う場面をつくる。 発見や感動に共感する。 友達の遊ぶ様子から刺激を得られるようにする。 友達の考えを聞いたり自分の思いを伝えたりすることで、新たな視点を見い出していけるように、いざこざや葛藤の場面を大切にす。 			
	環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 発見や工夫を伝えたり、一緒に調べたりする状況を作る。 したいことをじっくり楽しめる時間と空間を保障する。 栽培・飼育等は、子供と相談しながら決めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> イメージを広げられるよう、様々な素材・材料・道具の置き場所や数量等を工夫したり、図鑑や写真等を活用したりする。 水・砂・泥等の自然物の感触や性質を楽しんだり発見したりできるよう、場の設定や道具の選定など工夫する。 繰り返し挑戦しながら、試したり工夫したりできる場を用意する。 			
地域連携	家庭と	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との信頼関係づくりを大切にする。 		<ul style="list-style-type: none"> 子供の園での具体的な姿を直接保護者に伝えながら、子供の良いところを家庭と一緒に伸ばそうとする。 生活リズムを整えることの大切さについて保護者と共有していく。 			
行事等	子供先生	○参観日		○引継ぎ連絡会		○交流会の打ち合せ	

大切にしたい経験

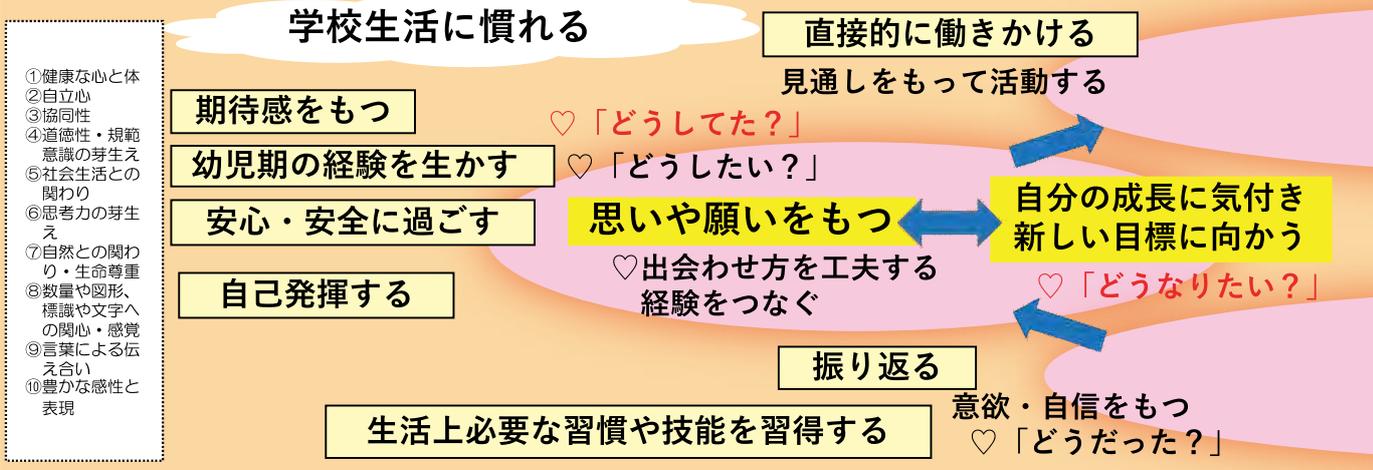


9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>友達と共通の目的に向かい、友達と協力して、遊びを進めていく楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達によさを感じながら共通の目的に向かって遊びを進め、目的を実現し達成感を味わう。 思ったり考えたりしたことを相手に分かるように話すとともに、気を付けて人の話を聞くようになる。 自分の目標に向かってあきらめず挑戦し、自分の力を伸ばしていくようになる。 数量や文字に対して興味や関心を持ち、進んで遊びに使おうとする。 様々な人との関わりの中で刺激を受けながら、自分の見方や考えを広げる。 地域の行事や職場体験等体験したことを遊びに取り入れ、より本物らしく再現できるように追究していくようになる。 <p>伝えたりするようになる。</p>				<p>遊びや生活を自分たちでつくっていく中で、一人一人のよさが生かされ、クラスの連帯感が深まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分達でルールを作り、守って遊びを楽しむようになる。 グループやクラスの中で、役割を意識して取り組むようになる。 自分の成長を感じ園生活の充実感を味わう。 就学に向けて期待をもちながら意欲的に過ごす。 自分たちの生活に見通しをもち、楽しみながら進めていき、充実感を味わう。 友達との遊びを進めながら互いのよさを認め合い、友達と過ごす喜びを感じる。 		
<p>身体を使った遊び</p> <p>「あとちょっと。もう一回やってみよう」</p> <p>事例3</p>	<p>秋の自然を取り入れた遊び</p> <p>「レジ作ったよ」「看板も必要だね」</p> <p>事例4、11、12</p>	<p>劇遊び</p> <p>「ぼくはこっちをするね」「こうしたらもっといいね」</p> <p>事例13</p>	<p>昔遊び・正月遊び</p> <p>「今日も挑戦するぞ」「こうするとおもしろいね」</p> <p>事例5</p>	<p>自信をもって生活</p> <p>「こうしたら小さい子が嬉しくなるね。ぼくはこうするね」</p> <p>事例14</p>		
<p>思いが満足できるような関わりを大切にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と助け合って取り組んでいる気持ちに共感する。 自分の力を出せた喜びや、友達と一緒にやり遂げた満足感が味わえるようにする。 行事等は子供の興味や経験が生かせるものにする。 目標に向かう頑張りを認めたり一緒に取り組んだりしながら、やってみようとする気持ちを大切にする。 イメージが実現するような材料や方法を一緒に考え、実現していく喜びが味わえるようにする。 				<ul style="list-style-type: none"> 互いに認め合い支え合う関係を育む学級の雰囲気をつくる。 一人一人が自信をもって行動している姿を認め、就学への期待に共感していくようにする。 感動を皆で共有することや伝え合う喜びを、十分に味わえるようにする。 		
<ul style="list-style-type: none"> 挑戦する意欲を高める環境を構成したり、友達と協力する状況をつくったりする。 体を動かし、挑戦してみたいような環境を構成したり共に楽しんだりする。 探究することを楽しめるよう、多様な素材・材料・遊具を準備したり、場や時間を保障したりする。 これまでの経験を生かして遊びに必要なものを自分達で選択できる状況をつくったりする。 				<ul style="list-style-type: none"> 今まで頑張ったことが繰り返し楽しめるような場や遊具を用意する。 これまでの経験を生かして、友達と遊びを進めていけるような材料や遊具を準備する。 遊びを通して数量（時間）や文字に関心がもてるような環境を工夫する。 		
<ul style="list-style-type: none"> 子供の困り感に対して、園での環境の工夫や保育者の関わり方、友達とのやり取りなどを保護者に具体的に伝えたり、家庭での様子を聞いたりしながら、子供の成長を共に考える。 自然との関わり等、豊かな体験が家庭にもつながるように生活の様子を知らせる。 				<ul style="list-style-type: none"> 就学に向けての不安や困り感に寄り添いながら個別の相談を受ける。 学校生活につながるよう、校区を歩くことや持ち物を自分で準備できるよう、家庭と連携して取り組む。 		
○交流会		○交流会		○一日入学		○卒園式
○園内研修・校内研修への参加（年間を通して）				○交流会の振り返り		○引継ぎ連絡会
						○要録

R6 架け橋期のカリキュラム（小学校）

めざす子供像の実現に向けた共通して取り組みたい指導

学びのプロセスで



- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字への関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

		4月	5月	6月	7月	8月
小 学 校	めざす子供の姿	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の経験を生かしながら学習や生活に取り組んでいる。 学校での生活は、様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して過ごそうとしている。 友達や先生と一緒に挑戦しようとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> 不思議に感じたことについて見通しをもって調べたり、自分の考えを友達に伝えたりしている。 地域の自然に触れることで四季の変化や季節の特徴を確かめながら、身近な自然を楽しんでいる。 		
	中心とした生活科の活動	がっこうせいかつすたあと がっこうたんけん <small>(生活・国語・算数・図画工作・特別活動・道徳)</small>	きれいにさいてね <small>(生活・国語・算数・図画工作)</small>	なつがやってきた <small>(生活・国語・算数・図画工作・体育)</small>		
	他教科との関連	スタートカリキュラム 国語・算数・生活・音楽・体育・図工・道徳・特別活動 <small>さあはじめよう ひとつつながることば よろしくね ほんがたくさん(国語)</small>		<small>こんなことしたよ(みんなにはなそう) みんなにはなそう(国語) あわせていくつふえるといくつ のこりはいくつちがいはいくつ(算数) いきものランド 水あそび(体育) べっだんころころ(図画工作)</small>		
指導上の配慮事項	先生の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 「やってみたい」「しりたい」「できるようになりたい」と思えるような学習対象との出会わせ方、思いや願いを大切にできるような学習展開を工夫する。(通年) 園での経験を引き出す投げかけをし、子供と一緒に活動の流れを考える。(通年) やってみたいこと、聞いてみたいことなどを引き出し、興味・関心を高めて、学校たんけんを中心に学習活動を展開する。 学校生活の流れやきまり、学習の流れやルールを確認しつつ、園での経験が生かせるように一緒に考え、進める。 発言やつぶやき、絵などを活用して、思考の流れやめあての達成に向けた考えを支援できる板書をする。(通年) 		<ul style="list-style-type: none"> つぶやきや活動の様子を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげる。(通年) 学習活動や学習形態を工夫し、子供の伝え合う気持ちを引き出す。(通年) 身近な自然を観察することで、それらの違いや特徴を見付けたり、伝え合ったりできるようにする。 身近なことを伝え合い、語彙が豊かになるよう学習を進める。(国語科「みんなにはなそう」との関連) 適切に振り返りを行い、次時に生かす。(通年) 		
	環境作り	<ul style="list-style-type: none"> 教職員に学習のねらいや活動内容を周知し、1年生が親しみ・興味・関心をもてるような関わりを依頼する。 園での生活や経験を聞き取り、始業前にも自由に使える道具やくつろげるスペース、各教科に関連する教材等を準備する。(通年) 自分でできた気持ちもてるように学校探検や当番活動などの場面で視覚支援を取り入れる。 年度末に自らの成長に気付くことができるように、学習の足跡をポートフォリオや写真等で残しておく。(通年) 		<ul style="list-style-type: none"> 園の「水遊び」の環境を聞き取り、経験に合わせて材料、素材などの教材との出会わせ方を工夫する。 自ら思考したり試したりできるように、道具・材料の数や量、置き方を工夫する。 季節ごとの生き物や季節の遊び等、追究したい気持ちを引き出すように関連する図書等を教室に置き、季節の変化への気付きを促す。(通年) 自由に思いを伝え合う場や勇気をつくり、言葉などで伝える喜びを感じられるようにする。 		
連携の地域	<ul style="list-style-type: none"> めざす子供の姿と共にスタカリ期の学校生活や授業について大切に行っていることを、通信や保護者説明会等で伝える。 		<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に物事に関わろうとする姿や経験していることを家庭や地域に発信し、児童の成長を温かく見守っていけるようにする。 			
行事等	子供	○入学式		○交流会の打ち合わせ		
	先生	○参観日		○引継ぎ連絡会		

A) チャレンジ精神

B) 自尊・他尊

C) コミュニケーション力

D) 郷土愛

大切にしたい経験

活動や体験する

見つける・比べる・例える
試す・見通す・工夫する

学びに向かう主体的な姿

探究する

課題発見・課題解決

行為する・表現する

相手意識をもって活動する・伝える

試行錯誤する

繰り返し挑戦する・協働する
ルールや方法を工夫する

♡「どうしたらいい?」

感じる・考える

友達の思いを受け止める
表現方法を工夫する

広がる・深まる

気づきの質が高まる

学校生活を楽しむ

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

- 互いの話に関心を持ち、相手の思いや考えを受けて話したり、聞いたりしている。
- 学習や生活の中で、自己の課題を見付け、解決のために活動を工夫したり、他者に伝えたりしている。
- 身近な自然を観察したり、地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、そのすばらしさに気づき、親しみをもって関わろうとしている。

事例8

事例16・9

いきものとなかよし
(生活・国語・算数・道徳)

たのしいあきいっぱい
(生活・国語・算数・図画工作・音楽・道徳)

ふゆをたのしもう
(生活・国語・体育)

もうすぐ2年生
(生活・国語・音楽)

鉄棒遊び・かけっこ・リレーあそび等(体育)

おもい出しかこう(国語)

はなしたいなききたいな
(国語)

ほんはともだち
はっけんしたよ(国語)

かざってなにいれよう
はこでつくったよ(図画工作)

どちらがおおい(算数)

かたちあそび(算数)

わかりやすくせいりしよう
10よりおおいかず(算数)

いいおとみつけて(音楽)

わたしがおねえさんよ(道徳)

どんなあいさつをしますか(道徳)

小学校のことを紹介しよう
1年かんをふりかえろう(国語)

みんなで合わせて(音楽)

いろんなうごきのうんどうあそび(体育)

- つぶやきや活動の様子から、次の活動へつなげたり、発想を広げたり、頑張りを紹介したりすることで、相手や仲間を意識して活動できるようにする。
- チャレンジしようとする姿や頑張りを認める声かけをすることで、自己肯定感を高める。
- 虫を探したり飼育したりして、親しみを持ち、生き物を大切にしようとする心を育む。
- 秋の自然を利用して遊んだり、遊びに使う物を工夫して作ったりできるようにすることで、遊びを広げたり、異年齢児との関わりをもったりできるようにする。
- 生活科で経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり、確かめたりして、伝えたいことが明確になるようにする。(国語科「はっけんしたよ」「おもい出しかこう」との関連)

- 取り組んだことを多様な方法で表現できるようにする。
- 自分の成長は、周囲の人々に支えられていることや内面的な成長に気づき、2年生への願いや期待感などをもつことができるようにする。
- 一人一人の成長や取組の過程を認めながら、友達の成長への気づき、学級全体の成長を喜び合えるように、児童のつぶやきや発言を認めたり、広げたりする。
- 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。(国語科の「1年かんをふりかえろう」との関連)

- 自ら活動できるように、自由に使える材料や道具を種類ごとに分類し、使いやすい場所に準備したり、収集した物を分類して保管できるスペースを準備したりし、様々な素材の特徴に気付くようにする。
- 友達と共通の目標に向かって学習を進めることができるように、単元のゴールまでの授業の流れを話し合い、それらを可視化することで、自ら確認しながら学習や活動に向かえるようにしておく。
- 友達との共通点・相違点、自分自身のよさに気付けるよう、子供同士がよりつながるように、学習や活動では適切にグループ活動を取り入れる。

- 冬ならではの遊びの経験が発揮できるように、自由に使える材料や道具を種類ごとに分類し、使いやすい場所に準備する。
- これまでの学習や生活の足跡の掲示物を意識して、自ら自身の成長を振り返ることができるよう、ICTを活用するなど、掲示の仕方を工夫する。

- 生活科の「家庭生活に関わる活動」の目的や内容について、児童自ら、自分の役割を家庭の中で積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりできるように、家庭に協力を呼びかけるとともに、ICTなどを活用して活動の様子を記録する。

- 生活科「自分自身の生活や成長を振り返る活動」の目的や内容について、児童が自分の成長を実感できるように、家庭でも成長と一緒に喜ぶことができるような投げかけをする。

○交流会

○交流会

○一日入学

○園内研修・校内研修への参加(年間を通して)

○交流会の振り返り

○引継ぎ会

5. 5歳児の実践（架け橋期のカリキュラムの事例より）

事例11:「お店屋さんごっこをしよう」5歳児(11月)

小学校の先生と幼児期の「遊びの中の学び」を考え合う際の資料としても活用できます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連

②自立心 ③協同性 ③数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い

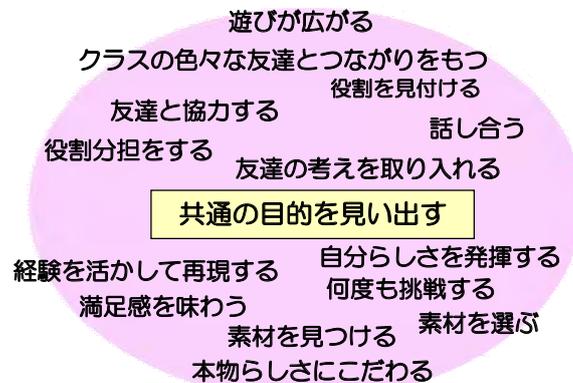
これまでの姿

・子ども達は木の実や小枝などの自然物集めをしたり、それらを使ってレストランごっこや製作遊びをしたりとこの季節ならではの遊びを友達と一緒に楽しんでいた。
・火曜日での買い物の経験から部屋でもお店屋さんごっこで売り買いを楽しんでいた。また子ども達がイメージを伝え合い役割を分担して一緒に遊びを進めていた。

◎ねらい◎内容

- ◎秋の自然に興味・関心をもちながら、友達と一緒にイメージを膨らませて遊ぶ楽しさを味わう。
- 身近な秋の自然物やいろいろな材料を使って製作をしたり、遊びに取り入れたりしながらお店屋さんごっこやレストランごっこなどをする。
- 友達同士で思いや考えを伝えたり受け入れたりしながら、助け合って作る。
- 文字やものの形に興味をもち、まねて書いたり工夫して飾ったりする。

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)



遊びの様子(番号:10の姿との関連)

②③A児が「レジも作ったよ」とレジを持って来た。するとB児が「そしたらお金もいるね〜」「僕、これで作る」とペットボトルのふたを持って来た。他児も「僕も!」「私は紙のお金を作ろう」と色画用紙でお金を作り始めた。

③「このお金、0がいっぱいだよ」「0がいっぱいやと高いから長い紙がある」と話しながら作った。また空箱を使って思い思いの財布を作り、できたお金を入れた。

お金を作ったK児は、お店屋さんに行って②③⑧⑨「ドーナツください」と言うと、店員のC児が「はい」とドーナツをトレーに入れて持って来た。すると、レジにいたD児がC児に「袋にいれんといかん」「袋に入れるから待ってね」とあらかじめ作っていたお持ち帰り用の袋に入れて渡した。お金を払うとレジにいたD児とA児が「おつり、おつり」とレジからおつりを出そうとして「これくらい?」「もっといける?」と話しながらおつりを渡していた。

★環境の構成 ○保育者の関わり

★お店屋さんごっこに必要な素材(木の実や枝・落ち葉、段ボール紙等)や道具(ペン等)を幼児が取りやすい場所に準備しておく。

○“お金だから紙”等といった大人の固定概念ではなく、子ども達の豊かな発想や主体的に取り組む気持ちを大切に、困ったときには相談にのったり、全体に共有したりする。

★友達同士で共通の目的をもって、役割分担をしたり、思いや考えを出し合って遊びを進めていけるよう、お店さんと製作場所の位置関係を工夫する。

○★子どもが試行錯誤しながら自主的に取り組んでいる時は、次の活動時間を変更する等、十分な時間を確保したり、納得できるよう配慮したりする。

遊びや学びのプロセス(10の姿)

「お店屋さんごっこをしよう」活動のプロセス

お店屋さんごっこのやりとりや、役割分担をしながら遊ぶ姿

○満足いく時間の配慮をする。

★遊びの場(位置関係等)を工夫する

友達と一緒に思いや考えを伝えながら、作ったお金を使って遊ぶ

○自分達で遊びを進める楽しさを味わえるよう、見守り、必要なときには相談に応じる。

★様々な素材を身近に置く。

お店屋さんごっこでお金が必要なことに気づき、どんなお金がいいか考え、作り始める

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

数字に0をたくさんつけると金額が高くなるという事を友達と考えながら書いている。
0が多いのは紙のお札であるという事を生活体験の中で認識している。



⑨協同性

友達と一緒に共通の目的に向かって遊びに必要なお金や財布などを試行錯誤しながら作っている。

⑩協同性

お店屋さんごっこでレジ係や品物を運ぶ人、買い物をする人など自分達で役割分担をして楽しんでいる。

⑪言葉による伝え合い

より本物らしいお店のやりとりになるように、自分なりに考えたことを友達に伝えたり、よりよい方法を考えたりしながら遊びを進めている。

⑫自立心

自分でイメージして作ったレジやお金などを使って遊びを広げていくことで満足感や達成感を味わっている。

小学校教員の気付き



◆1つの目的に向かって協同している時に、**必要以上に保育者が援助に入っていない**。子供の主体性を育むにあたって**“待つ援助”の大切さ**を感じた。

◆お金を作る過程で「これはこうでない」と**固定概念**をもって関わるのではなく、子供の発想や思いを大切に**する関わりや、それを実現できる環境がある**のがいいなあと思いました。

◆お店屋さんごっこをするにあたり、子供の様子を見ながら、**必要な物を事前に準備している**。**必要な時にすぐに掲示できる環境**を準備するには個々の子供の動きやつぶやきをよく聞いているからだと思う。

保護者への発信ポイント



◆保育者に頼ることなく子ども同士で試行錯誤しながらお店屋さんをより本物らしく楽しむ姿が年長さんらしいです。このような**これまでの経験を活かして**、豊かな発想から遊びが深まっている年長後期の育ちを**具体的なエピソードや写真を交えて**、伝えていくといいですね。

事例10:「作った色水を移し替えよう」5歳児(7月)

幼児期の終わりにまで育てほしい姿(10の姿)との関連

- ◎協同性 ◎思考力の芽生え ◎自然との関わり・生命尊重 ◎数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ◎言葉による伝え合い ◎豊かな感性と表現

これまでの姿

・ビニル袋を使ってA児とB児が朝顔の花で色水を作っていた。試行錯誤するうちに花を揉むと、だんだん色に変化が出てくることに気付いた。

◎ねらいの内容

- ◎身近な素材に興味や関心をもち、特性を知り、試したり工夫しながら遊びに取り入れて楽しむ。
- ペットボトル、ざる、じょうごなど道具を使い、試したり工夫したりしながら色水を混ぜ合わせ作っていく。
- アサガオの花から色がつくことや、水の不思議さに気付いたり、色の変化に興味をもったりする。
- 感じたことや考えたことを友達と一緒に共有しながら、イメージを膨らませ遊びを進める。

遊び意欲のキャリアアップとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)

- 試す 想像する
- 友達の考えを取り入れる
- 素材や材料を工夫する
- 自分のやりたいことへ向かう
- 素材を供給する
- 素材を遊ぶ

「色水の移し替え」遊びのプロセス

道具の特性に気づき、道具を工夫して使い始める

◎道具箱に書いてある物を外に試したり挑戦したりしたい衝動があれば、応じる。

道具の特性に気づき始める

★試行錯誤できる場と時間を確保する。

身近な道具を使ってみる

★試すことができる用具を準備しておく。

遊びや学びのプロセス(10の姿)

◎思考力の芽生え

色水を色々な容器に移し替える中で、それぞれの道具の性質や仕組みなどに気付いたり、考えたり、工夫したりするなど、多様な関わりをしている。また、友達の提案を受け入れ、新しい考えを生み出す喜びを味わっている。

◎自然との関わり・生命尊重

自分で育てた朝顔の花が、水にぬれることのような色になるが好奇心をもって関わっている。



◎協同性

共に遊ぶ中で、相手の思いを受け止め、実現できるように提案し、友達の役に立つ喜びを感じている。

◎数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

ビニル袋やジョウロ、ペットボトルやじょうご等それぞれの性質や仕組みに気付く体験の積み重ねが、ゆくゆくは自分達の遊びや生活の中で適当な道具を使うことができるようになる。

◎豊かな感性と表現

色水を色々な容器に移し替えたとき、色水のままの気持ちや声や表情、身体の動きになって表れている。考えたことに対して必要な道具を選んで表現する過程を楽しんでいる。

◎言葉による伝え合い

友達の気持ちや状況に応えられるよう、言葉と共に具体的な道具を見せながら伝えている。

遊びの様子(番号:10の姿との関連)

★環境の構成 ○保育者の関わり

A児は、◎◎自分で育てたアサガオで色水を作り、ビニル袋に入れた。A児は他の容器に移そうと「何か他の入れ物ないかな」と言うと、B児が近くにあったジョウロを持ってきた。◎A児は色水の入ったビニル袋からジョウロに移し替えた。次にA児は、ジョウロから近くににあったペットボトルに色水を移そうとした。◎A児が「うそ、早く入れない。何かいい方法ない?」と言うと、B児が「道具箱からじょうごを見付けた。これ(じょうご)を使ったらいいんじゃない?」と言った。A児は「それ、それ」とジョウロに替っていた色水をじょうごを使ってボウルに注ぎ始めた。すると、じょうごに花びらが詰まって色水が出なくなった。A児が「水が出なくなった」と言うと、B児は道具箱を見渡し、ざるを持ってきた。A児は◎「これでやってみよう」と笑顔でボウルの中にざるを置いた。ジョウロに入った色水を注いで強立て、ざるでかき混ぜ始めた。何回かかき混ぜるうちに、ざるの目に花びらがつかると、色水だけがボウルに落ちていくことを発見した。

★必要な道具(ペットボトル、ビニル袋、カップ、すり鉢、すりこ木、ざる、じょうご等)を用意しておき、友達と話しや考えを伝え合いながら、繰り返し使ったり、多角的に考えて遊ぶことの楽しさを感じられるようにする。

○道具の形や物の特性に気付いたり、友達と一緒に試したり挑戦したりする意欲につながるように、道具は遠くで見守る。

○道具箱に書いていない道具を試したいことややりたいことの相談があれば、一緒に考えたり、方法を提案したりする。



小学校教員の気付き

◆困ったり、どうしよう考えたりすることで学びが始まる。そのためにも、小学校でも自由なような考えを試すことができる環境作りがとても大切だと感じた。

◆困ったときに教師がすぐには手を差し伸べるのではなく、友達同士で考えを出し合ったり、試したりできるようにそばで見守り、子ども達に任せることも大切だと感じた。

保護者への発信ポイント

◆「こうしてみたい」と思いをもってやり始めたことを保護者も一緒に楽しんで見守ってください。助けなくても、子供の力を信じて見守ることによっていろいろな気付きが生まれます。子供が発見したことに驚いたり、認めたりすることで、自信につながります。幼児教育を行う施設として育みたい資質・能力を一体的に育んでいることを「育みたい資質・能力」の図やその中の言葉から、具体的に分かりやすく伝えるといいですね。

事例12:「お客さんによく見える看板にしよう」5歳児(12月)

幼児期の終わりにまで育てほしい姿(10の姿)との関連

- ◎自立心 ◎協同性 ◎道徳性・規範意識の芽生え ◎思考力の芽生え ◎数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ◎言葉による伝え合い

これまでの姿

・11月末から小さい組を客に招き、店員になりきってお店屋さんごっこをして遊ぶ姿が見られた。小学校の1年生との交流活動で、おもち作りに参加し、店番や好きなコーナーで入れやけし引きをして楽しんだ。

◎ねらいの内容

- ◎友達と話しや考えを伝え合いながら、イメージしたものを表現させていくことを楽しむ。
- 友達同士でイメージを共有し、提案したり、受け入れたりしながら協力して作る。
- いろいろな材料や道具を使い、試しながら製作する。
- 本物らしく作ろうとし、細かなところにも気をつけて丁寧に作る。

遊び意欲のキャリアアップとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)

- クラスの色々な友達とつながりをもつ
- 遊びや生活の楽しさが伝わる
- これまでに経験してきた
- 満足感を味わう
- クラスの仲間と力を合わせる
- 自分の力を発揮する
- 友達と気持ちを通わせる
- イメージや考えを交流する
- 失敗しても諦めない
- 本物らしくこだわる
- イメージを膨らませる
- 経験を生かして表現する

「お店屋さんごっこ」の看板作り活動のプロセス

共通したイメージの実現

○お客さんの立場になって看板を見るよう提案する

○必要に応じてICT機器を使いイメージの共有をする

友達と一緒に作る・調べる

★必要となりそうな素材を準備する

★スペースを広く取る

どんな看板がいいか考える

遊びや学びのプロセス(10の姿)

◎数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

「大きい」「丈夫」「見やすい」「おしゃれ」など看板に必要な要素に気付く、おきくさんにとってよく見えるように作るようになる。

◎道徳性・規範意識の芽生え

お客さんのことを意識した看板を作る。

◎協同性

お客さんに、とってよく見える看板を作ることを目標に、子ども同士でイメージをすり合わせ、工夫しながら作るようになる。



遊びの様子(番号:10の姿との関連)

★環境の構成 ○保育者の関わり

アクセサリー屋さんの2人は、お店に看板が必要であることに気付いた。◎水色と青の画用紙を貼り合わせてよく切り、そこに鉛筆で店名とお店のイメージに合った絵を描いた。「先生できた!」と満足した様子で言いに来た。保育者は、お客さんにとって2人が作った看板が役割を果たしているのが自身の気付きを大切にしたいと思い、少し離れたところから看板を見ているよう提案した。2人は、看板を遠くから見て、次第に◎◎「あー、でも青い方は見えん」、「(色画用紙の)色が濃すぎた」、「うさちも(1,2歳児)の人達が見えんかもしらん、ペンで書く?」とA児が言った。◎◎◎◎の色にするか話し合い、B児が「あつたかい色にしたい」と言い、黄色のマーカーで鉛筆書きの上をなぞった。離れて見てみるとまだ見えにくく、A児が黒のマーカーでなぞってみてどうかと提案した。離れた所からでもよく見えることを確認し、◎お客さんにとってよく見える看板が作れたことを満足そうにしていた。

★思いを形にできるように看板作りに必要な素材(色画用紙、色紙、木工ボンド、段ボール片、モール、自然物、木の葉、落ち葉など)を十分準備し、製作スペースを広く取るようにする。

○子ども達の考えている看板に近い画像をICTを使って提示したり、話し合ったことを図にしたりすることで、イメージをより具体化できるようにしていく。



○子ども達の思いやアイデアを受け止めながら、お客さんによく見えるように、工夫したり確認したりする中で、達成感が味わえるような言葉掛けをする。

◎自立心

友達と看板作りという共通の目的に向かって工夫し、諦めずにやり続ける満足感を味わう。

◎言葉による伝え合い

よりよい方法を考え、話し合ったり、一人が離れて看板を持ち「見える?」と確認したりしながら製作を進める。

◎思考力の芽生え

鉛筆や黄色のマーカーで書いた文字の見えづらさに気付く、どの色で書いたら見えやすいかなど話し合いながら試行錯誤する。

小学校教員の気付き

◆子供達が話し合っていて、案を出し合っていて工夫していくことで、納得のいく看板が仕上がっている。このような活動は、小学校でも引き継いでいきたい。

◆一緒に作っていく中で、思いを出し合っていて、相談しながら、意欲しながら、折り合いをつける。小学校で大切にしている力の基礎を培っているなど思いました。

保護者への発信ポイント

◆子供達同士が話し合っていて、例えば、2人で話し合い、案を出し合うことでよりよいものを協力して作っている。これは相手の気持ちに気付いたり取り入れたりすることや、コミュニケーション能力、協同してよりよい物を作る力を育んでいる等、幼児期の終わりにまで育てほしい姿(◎協同性)を発信ツールの一つとして伝えていくのもいいですね。

事例13:「発表会の劇作りをしよう」5歳児(12月)

幼児期の終わりにまで育てほしい姿(10の姿)との関連

- ◎協同性 ◎数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ◎言葉による伝え合い

これまでの姿

これまでの発表会を振り返る中で「お母さんをびっくりさせた!」笑わせたい「絵を描きたい」また、昨年見た保育者の出し物の顔出しパネルの印象も残っていたことから「顔出しパネルをやってみよう」等の意見が出た。そして劇を顔出しパネルでやってみようとした。物語を演じるようになった。

◎ねらいの内容

- ◎友達と協力しながら、共通の目的に向かって取り組む楽しさを知り、やり遂げる充実感を味わう。
- ◎お家の人を驚かせたいなどの目標をもち、そのためにどうすればよいか考える。
- ◎友達と一緒にしたり助けてもらったりしながら、みんなで作り上げた喜びや、一緒にやり遂げる仲間がいることの喜びを感じる。
- ◎発表に必要な物や道具を自分で準備したり、道具を適切に使ったりする。

演技経験のやりかたやその関係(遊びの中で経験させたいプロセス)

クラスの色々な友達とつながりをもつ
遊びや生活の場面を生かす
これまでの経験を生かす
満足感を味わう クラスの仲間と力を合わせる
自分の力を発揮する 友達と気持ちを合わせる
イメージや考えを交換する
失敗しても構わない 本物らしさにこだわる
イメージを膨らませる
経験を生かして再演する

遊びの様子(番号:10の姿との関連)	★環境の構成 ○保育者の関わり
図書室に物語を選びに行った。遊びに行く前に「④『風をよすい絵にしよう』『知っているお話がいいね』と話し合った。馴染みのあるお話や絵本を中心に遊び、多数決で「ももたろう」を選ぶことになった。 配役を相談し、「僕は犬が好きだから大役をやりたいね」と話し合っていた中で、A児から「『そら』に書いておくれんね」と提案があり役名と名前を書き出していくことになった。 配役が決まるまで、ボール紙を用いて自分の配役の絵を描いていくようにした。大きなボール紙に大きく描くことに挑戦していたが、④「こはこうやって描いてみたらいい」と指で線を描きながらアドバイスしたり「もうちょっと膨らんじゃうで」と言葉で知らせていた。また、絵本の色と同じように塗りたいが、何色と何色を混ぜるといいかわからない時には保育者に尋ねていた。 パネルの絵もできあがり、練習が始まった。「ももたろうは鬼退治に行くから歩くように(パネルを)動かそう」「鬼は恐ろしいから(パネルを)動かさそう」「鬼は恐ろしいから(パネルを)動かさそう」とパネルの動かしかたやセリフの言い方などを考え、友達同士で伝え合っていた。	◎互いの考えや思いを伝えたり聞き入れたり、話し合ったりできるように、自分達の写真を貼せたりホワイトボードに考えを書いたりし、子ども達が主体的にやり取りできるようにする。 ★様々な物語に触れることができるように、図書室へ絵本を選びに行く。 ★子どもがイメージしていることが達成できるように、必要な材料や道具を手配しておく。 ◎みんなで1つのものを作っていくという意識がもてるように、子どものイメージを大切にしたり、自分や友達の首に目や顔が向けられるよう、友達にアドバイスしている姿を見せたり、他の子どもに絵のよいところを伝えたりする。 ★描きたい時間に思い切り絵を描くことができるよう、広いスペースや時間の確保をする。 ★劇で子どものやりたい動き等ができるよう、十分な広さの部屋を確保する。借りてくると舞台も用意する。

「制作(顔出しパネル)」活動のプロセス

共通の目的に向かって、友達と制作を楽しむ

- ★やりたい動きができるよう十分な広さを確保する。
- ◎子どもの提案や長さを言葉で伝え、広げる。
- 劇に必要なパネル作りに取りかかる
- ◎配役を書くための紙を用意する。
- ◎図書室へ行くよう提案する
- 物語を何にするか考える
- ★互いの顔が見えるように座り、可視化物やホワイトボードを使用する。
- どんな発表会にするか伝え合う

遊びや学びのプロセス(10の姿)

- ◎数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
配役を書いておくことで確認できるように気がつき、活用する。
- ◎協同性
どのような発表会にするか互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的が実現する喜びを味わう。
- ◎言葉による伝え合い
豊かな感性と表現
絵を大きく描くことに挑戦している友達の様子からどうしたらよいか言葉や身振りで伝えたり、表現したりしている。

小学校教員の気付き

- ◆子供達のやりたい思いを大切にしながら、劇を成功させようという1つの目的に向かって取り組む中で、自然と友達同士の関わりが生じたり、新たなアイデアが浮かんだりしていることを10の姿を手がかりに小学校の教員同士共有したいと思っています。
- ◆子供達のやりたいと思う気持ちを大切に、子供同士が話し合い協力し合って取り組んでいる。この話し合い活動を小学校でも活かしたい。

保護者への発信ポイント

- ◆友達と絵を描く、色を塗る等、活動の1つ1つのやりとりの中で、指で線を描きながらアドバイスしたり、「もうちょっと膨らんじゃうで」と、数量や図形に対する感覚、表現力が磨かれていくことを具体的に伝えていきたいと思います。

事例14:『手伝ってくれてありがとう』って思ってもらおう」4・5歳児混合クラス 5歳児(2月)

幼児期の終わりにまで育てほしい姿(10の姿)との関連

- ◎健康な心と体 ◎自立心 ◎協同性 ◎適性・規範意識の芽生え ◎言葉による伝え合い

これまでの姿

3学期に入り、自分達の午睡がなくなったため、3チームに分かれ、小さな組(1, 2, 3, 4歳児)が午睡起きる時間帯に手伝いに行くことにした。なかなか勇気が出なかった子どもも思い切って声をかけたり、優しく話を聞いたりする姿が見られるようになった。そこで、この日手伝いに行く前に、これまでの手伝いを振り返るひと時をもった。

◎ねらいの内容

- ◎年齢児としての自覚をもち、自分の成長を感じ充実感を味わう。
- ◎自分の思いを言ったり友達の気持ちを受け入れたりして心を通わせる。
- ◎小さな組の友達の手伝いに関わったり布団の片付けの手伝いをしたりする。

演技経験のやりかたやその関係(遊びの中で経験させたいプロセス)

演習感味わう
試すにこころや期待感をもつ
自分なりの課題を考えてやり遂げる
目標をもって生活する
友達のよさを認め合う
勇気的に伝える
自分たちの成長を感じる

遊びの様子(番号:10の姿との関連)	★環境の構成、○保育者の役割
保育者が「お手伝いに行ってみてどうだった?」と問いかけると、「『布団を畳むき下りて』って言ったら、まぶし下りてくれるよ!」と返ってきたり「寝るときは優しく顔をなでてあげたらいいよ!」と「眠って人に着せたら、前後ろが分からなくなるがよね!」と「Aくんは起こそうしたら怒るがって...」等の話が出た。するとB児が「Aくん怒るって言うけど、僕が行ったら怒らんで、④気持ちを気持ちよくしちゃったらいいで」と言った。「気持ちを気持ちよくって、どういことかな?」と保育者が尋ねると、C児が「優しい気持ちで起こしに行ったらいいね」D児は「手伝ってくれてありがとうって思ってもらおう」と言った。他の子ども次々に「『おれい!おれい!』って言い、その言葉がクラスの目標となった。さらに、C児は「チームの2人が着替えの手伝いに行き、僕は布団を畳もう」と言った。 その日、C児は「今日も布団は僕に任せて、DとEはバジャマを着替えてさっさと」と友達に向けて自分の思いを伝えた。それを聞いたD児は着替えが終わっていない小さな組の友達を助けて手伝いに行き、丁寧にバジャマを畳んだ。	★一つの机を囲むようにして集まり、互いの顔を見ながら意見を聞いたり、思ったことが言えたりするような雰囲気作りをする。 ◎友達の考えを聞き、理解したり共感したりしながら自分の考えを深め、具体的な経験に繋げていくことができるように言葉を足したり思いを引き出したりしていく。 ◎子どもが思いを共有し、共通の目的に向かってやり遂げ、満足感をもつことができるように、一人一人を認めていく。 ★話し合った内容を長年組の保育者に伝え、5歳児の主体的な活動を促し、自覚に繋がっていくようにする。

「小さな組の手伝いをする」活動のプロセス

役に立つ喜びを感じ、充実感・満足感を味わう

友達と思いを伝え、共通の目標をもち

- ◎思いを引き出す投げかけをする。
- 話し合いの中で、自分の気持ちを伝えたり、友達の思いを聞いたりする
- ★互いの顔が見えるよう集まり、思ったことが言える雰囲気作りをする。
- ◎小さな組の世話についてクラスみんなで振り返る時間をつくる
- 小さな組の世話をする

遊びや学びのプロセス(10の姿)

- ◎健康な心と体
充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を動かしている。
- ◎健康な心と体
午睡や衣服の着脱の必要性が分かり、小さな組の友達に関わっている。
- ◎自立心
手伝いにはいろいろな役割があることを知り、自分の役割を自覚し、やり遂げようとしている。
- ◎協同性
みんなで話し合った手伝いに対する共通の目的の実現に向けて、役割を分担したり協力したりして、取り組む楽しさを味わっている。
- ◎言葉による伝え合い
経験したことを言葉にして伝えたり、友達の話を理解して聞いたりし、伝え合う楽しさを味わっている。
- ◎適性・規範意識の芽生え
小さな組の友達の思いを想像し、優しい気持ちで行動している。

小学校教員の気付き

- ◆入学してくる1年生に何でも教えてあげないといけないと思いがちだが、園で共通の目的に向かって経験させていることを知り、小学校でも学びをつけていきたいと思った。
- ◆自分達で目標を決めるという経験を年長から積み重ねていくことを1年生のスタートからどのように話かすが大切だと感じた。
- ◆やってみたいと相手の気持ちが分からないことにはたくさんあります。その都度振り返りながら、相手の気持ちと向き合っていく。次のよりよい方法を考える活動を小学校でも大切にしたいと思いました。

保護者への発信ポイント

- ◆小さな組と関わりをもつことで、相手の気持ちを考えながら行動する姿が見られていきます。年齢児同士で共通の思いをもって自分達にできることを、写真などを使ったドキュメンテーションなどで具体的に伝えていきたいと思います。

幼保支援課 HP には、その他の事例もアップしています。ぜひ、ご活用ください。

6. 入学式後の3日間(スタートカリキュラム)

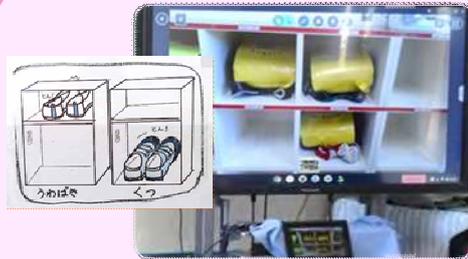
入学式後
1日目

スタートカリキュラム 4月

【ねらい】「学校って楽しいな」学校や友達に関心をもち、学校生活に意欲的に取り組もうとする。

日	4月10日(月)
行事	集団下校
登校して	♡のんびりタイム (自由遊び)
朝の会	♡なかよしタイム
1 学 音	♡【なかよし】学活
	みんなとなかよくなる う
	・荷物の片付け方を 考える
	・歌「ドキドキドン」年 生」 ・ダンス「パプリカ」 ・トイレの使い方
2 生 学	★【わくわく】生活
	こうていでいっしょに あそぼう
	・並び方や通り方の 確認
	・走ってみよう ・ゲーム「もうじゅうが り」
長休	
3 学 学	★【わくわく】学活
	よろしくね
	・荷物の仕方
	・今日の振り返り ・下校する仲間を知 る

◆靴箱とロッカーは写真やイラストで提示



◆園に近い環境構成(園で慣れ親しんだ遊びを自己選択, フリースペース)



ぬり絵・ブロック・折り紙・絵本・図鑑 等

～♪お片付けの音楽(片付け・トイレ)♪～

トイレの使い方

- ♡「園ではどうやった?」
- ♡「園とどこがちがう?」



【経験を引き出す】
今までの経験を引き出し、生かせるようにする。

朝の会～1時間目

前に出すもの、机の中に入れるもの、筆箱、道具箱の中身を確認。(名前の確認も忘れずに!)

- ①あいさつ
- ②にもつ
- ③歌
- ④ダンス

園で歌っていた歌や踊りたい曲を聞き、動画を見ながら一緒に楽しく歌って踊る。

【経験を踏まえる】
「～したい」という子どもの思いや願いを聞く。

2時間目(生活)

「校庭でいっしょにあそぼう」

- ・並び方や通り方
- ・走ってみよう



「運動場、広い!」
子どもの発言から校庭へ!



散歩しながら、並び方や通り方も、「どうしたらいい?」と子どもに聞いて一緒に確認する。

- ・ゲーム「もうじゅうがり」

◎初日だからこそ「小学校って楽しい!」
「明日も学校に来たい」と実感できる経験をさせたい。

3時間目(学活)

「よろしくね」

- ・荷物の仕方
- ・振り返り(時間があれば)

何が楽しかった?
みんなでしてみたいことは?

- ・下校班の確認
- ・下校班リボンの色の確認
- ・名札、トイレ

朝一番に、どこに帰るか確認しておき、下校指導担当に名前や人数を報告しておく。

ポイント

- ◆園での生活に近い状況で安心感がもてるよう、初日から4～5人のグループ机にしておくことよい。



- ◆マットやミニ机があると活動しやすい。(事前にどんな遊びに親しんでいたか、園に聞いておく)

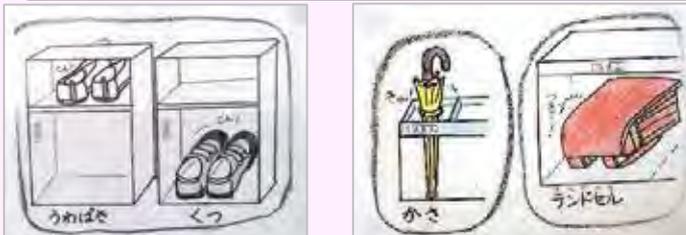


小学校スタート時は特に、「安心」「自己発揮」が大切です。教師が園での経験を子どもや園の先生に尋ねることで、授業を工夫する際の手がかりが見付かりますよ。

入学式後
2日目

日	4月11日(火)
行事	集団下校
登校して	♡のんびりタイム (自由遊び)
朝の会	♡なかよしタイム
1	♡【なかよし】音楽
	国 おんがくにあわせてからだをうごかさう
	音 ・朝の会 ・歌に合わせて (手遊び歌・貨物列車・ じゃんけん遊び・ネーム ゲーム)
2	★【わくわく】国語
	国 なまえをかいてみよう
	生 みんなとなかよく:よろしくね ・名刺カードづくり ・好きなものを描いて みよう
3	★【ぐんぐん】学活
	学 ともだちのなまえをおぼえよう
	国 ・仲よし大作戦 ・よろしくね ・挨拶・名刺交換 ・発表や返事の仕方・聞き方 学 ・通学路や歩き方の確認

◆靴箱とロッカーは写真やイラストで提示



【ほめて認めてルールの定着】

ランドセルの片付け方等、約束が守れている子どもを評価する。

◆園に近い環境構成 (園で慣れ親しんだ遊びを自己選択, フリースペース)



昨日使ったから、出し方や片付け方も分かるよ。

～♪お片付けの音楽 (片付け・トイレ)♪～

朝の会～1時間目(音楽)

- ①あいさつ(出席調べ)
- ②歌・ダンス
- ③手遊び歌, 貨物列車, じゃんけんゲーム, ネームゲーム

朝の会からの流れで、音楽の時間は教科書を見て、子どもに歌いたい歌やダンスを聞いたり、ゲームをしたりしてみんなで楽しく活動する。

2時間目(国語)「なまえをかいてみよう」

●鉛筆を使うことに興味をもつことができるよう、理由を考えながら、姿勢や鉛筆の持ち方や手の置き方を知る。

【理由を考える】

正しい「姿勢」や「鉛筆の持ち方」にする理由や良さを一緒に考える。



名前の横に好きなものをかいて、3時間目の活動で使用する(「名前カード」)→カードの素材や色、形を数種類用意する等、子どもが選んで使えるのもよい

👉ポイント

◆入学したら、教科書や鉛筆を使うことを楽しみにしている子どもも多い。新しい教科書の表紙の絵に着目したり、「どのページが好きかな？」などと投げかけ、子どもの意欲をもたせるようにする。「1年生になった」という気持ちを大事にしたい。

3時間目(学活)「ともだちのなまえをおぼえよう」

●友達と「名前カード」を交換し、自己紹介をし合う。

【子どもと一緒にルール作り】

「どうしたらいい?」、「園ではどうしていた?」と、今までの経験を引き出し、一緒に考えながらつくる。

帰りの会

・したことやよかったこと等を一緒に振り返り、価値付ける。

♡「お家の人に話してね。」

入学式後
3日目

スタートカリキュラム 4月

【ねらい】「学校って楽しいな」学校や友達に関心を持ち、学校生活に意欲的に取り組もうとする。

日	4月12日(水)
行事	集団下校
正校して	♡のんびりタイム (自由遊び)
朝の会	♡なかよしタイム
1	♥【なかよし】国語 たいそうふくにきがえてからだをうごかさう ・仲良し大作戦 ・体操服に着替える ・ならびっこ(いろいろな並び方)
	★【わくわく】生活 ほけんしつってどんなところかな ・身体測定 ・学校にいる人と仲良くなりたいな ・保健室の先生
	長休
3	★【わくわく】生活 がっこうのことがしりたいな ・友達と学校探検しよう ・給食室に行ってみよう ・給食室の先生
	★【わくわく】学活 きゅうしょくたのしいね ・給食当番の方法 ・準備、片付けの仕方(園でしていた係、違い)
	4

◆毎日のルーティーンであることが分かってくる



～♪お片付けの音楽(片付け・トイレ)♪～

【ほめて認めてルールの定着】

朝の準備、のんびりタイムの過ごし方等、自分たちで決めたルールが守れている子どもを評価する。

【経験を生かす・考える】

「どうしたらいい?」と子どもに聞き、服の着替え方や置き方を確認していく。なぜそうするのかも確認すると分かりやすい。

朝の会～1時間目(体育)

- ①あいさつ(出席調べ)
- ②歌・ダンス
- ③着替えの仕方、衣服の置き方の確認
- ④友達のこと(体のことについて)
- ⑤風船リレー、友達集まれ、おにごっこ

3時間目(生活)「はっけん!春野東小学校!」

●幼児期に使っていた施設との共通点を探しながら、学校の中を歩いたり、友達と関わったりする中で、学校の施設の使い方や友達のよさに気づき、安心して楽しく生活することができるようにする。

♡「学校にはどんな場所があるかな?」

♡「学校の中のどこに行ってみたい?」

【やくそく】

- ①時計の針が〇になったら戻る。
- ②廊下は静かに歩く。
- ③ペアの友達と一緒に歩く。

♡「どんなふうに行ったらいいかな?」

【準備物】

・学校マップ(拡大コピー2枚分)

【自分たちでルール作り】

子どもに聞きながら、一緒に探検のルールをつくっていく。

探検後、カードに見付けたものや出会った人を絵や言葉でかく。

事前に全職員に学校探検のねらいや内容を伝え、関わり方を共有しておく。(日程の確認も)
○可能な範囲で、認める等の声かけをお願いしたい
○困った行動を見たら、理由と一緒に伝えてほしい等

ポイント

◆生活科の教科書を活用する

教科書のイラストや写真を見て、「いろいろな先生がいる職員室はどこかな。」などと投げかけ、職員室に行ってみたいという意欲を高める。

◆生活科の学習を掲示して残す

探検で見付けたものは学校マップに掲示して、次時への活動につなげたり、振り返りを行うときに活用したりする。子どものつぶやきや発言の気づきや写真も入れるとよい。

◆タブレット端末を活用する

タブレット端末を授業の中で効果的に取り入れることで、気づきの共通理解が深まる。

4時間目(学活)

「きゅうしょくたのしいね」

●幼児期に給食で食事をよそう経験をしている園もあれば、配膳のみの園やお弁当の園もある。様々な経験の違いがある中、それぞれが経験してきたことを伝え合いながら、自分達で給食を食べるためにどうしたらよいかを考えられるようにしていく。



園の給食の時
どうした?

●当番活動の経験は、今後の係活動にもつなげることができます。

園でお当番の仕事してたよ。その時はね・・・

配膳を待つときはね・・・

片付けも自分でしてたよ。



7. 小学1年生の生活科実践

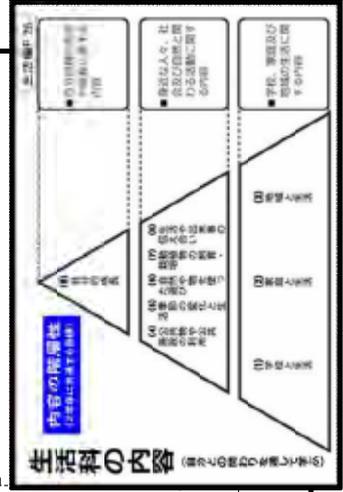
① 第1・2学年 生活科年間指導計画

第1・2学年 生活科 年間指導計画

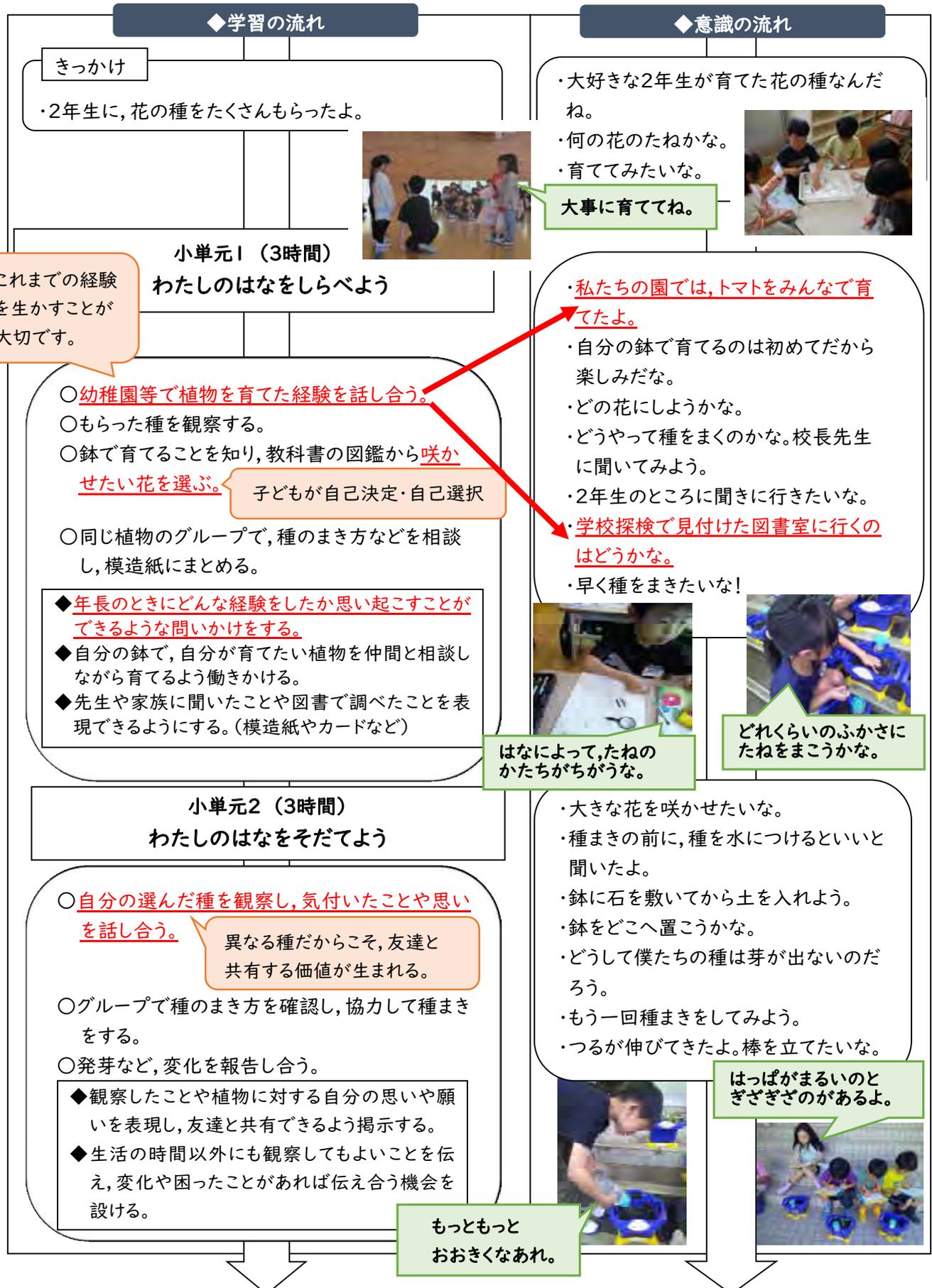
テーマ 『 学校大好き みんな大好き 春野大好き ～やりたいこといっぱい～ 』

・()は、教科の内容項目
・○は配当時間数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	入学式 学校探検							低学年交流 保幼小交流(園)保幼小交流(校)		学習発表会 一日入学		終了式
単元	どきどきわくわく 1ねんせい(8)	かっこだいすき(12)	なつがやがってきた(4)(5)(6)(8)	いきものとなかよし(3)(7)(6)	たのしいあきいっぱい(5)(6)(17)	もっとなかよし しまちたんけん(3)(12)	つながるひろがるわたしの生活(3)(4)(8)(12)	あしたへジャンプ(9)(27)				
単元	きれいにさいてね(7)(8)	きれいにさいてね(7)(8)	きれいにさいてね(7)(8)	きれいにさいてね(7)(8)	きれいにさいてね(7)(8)	きれいにさいてね(7)(8)	きれいにさいてね(7)(8)	きれいにさいてね(7)(8)	きれいにさいてね(7)(8)	きれいにさいてね(7)(8)	きれいにさいてね(7)(8)	きれいにさいてね(7)(8)
備考	国語・算数・音楽・体育など各教科との関連(スタートカリキュラム)	図工・学活・国語等との関連(5歳児との交流活動)	国語・道徳・学活等との関連	国語・道徳・学活・図工等との関連	国語・道徳・学活・図工等との関連	国語・道徳・学活・図工等との関連	国語・道徳・学活・図工等との関連	国語・道徳・学活・図工等との関連	国語・道徳・学活・図工等との関連	国語・道徳・学活・図工等との関連	国語・道徳・学活・図工等との関連	国語・道徳・学活・図工等との関連
行事	始業式 校区探検						低学年交流		学習発表会		終了式	
単元	春だ今日から 2年生(3)(5)(6)	どきどきわくわく まちたんけん(3)(10)	春の自然や地域と関わり、取り入れて生活を楽しくしようとする。	身近なもので動くおもちゃを工夫してつくり、友達と楽しみながら遊びをつくり出し、1年生を招待して活動する。	みんなであつちの公共施設を かまの活用し、み なで使う 物や支える 人に、気付 き、正しく利 用する。	つながるひろがるわたしの生活(3)(4)(8)(12)	あしたへジャンプ(9)(27)					
備考	国語・算数・学活等との関連	図工・学活・国語等との関連(1年との交流)	図工・学活・国語等との関連	図工・学活・国語等との関連	図工・学活・国語等との関連	図工・学活・国語等との関連	図工・学活・国語等との関連	図工・学活・国語等との関連	図工・学活・国語等との関連	図工・学活・国語等との関連	図工・学活・国語等との関連	図工・学活・国語等との関連



②単元名「きれいにさいてね」



小单元3 (2時間)
わたしのはなもきれいにさいたよ

- タブレットを使って、成長や変化を記録できることを知らせる。
- 植物の成長や開花の様子を伝え合い、タブレットで写真を撮り、カードに書く。

- ◆長期間にわたって世話を続けてきた自分を見つめ、友達とも認め合えるようにする。
- ◆苦労したことや失敗したことも含めて、一生懸命お世話をしたことを価値付ける。

自分で決めたことだと、失敗も学びになる。

2かいもたねをまきなおしてやっとおはながさいたよ。



小单元4 (2時間)
みんなのはながきれいにさいたね

- それぞれの種を持ち寄って、数える。
- 自分の植物と友達の植物とを比べて、成長の違いや似ているところを話し合う。

- ◆種の種類ごとにできた数を、算数で学習したことを使って工夫しながら数えられるよう、意識付けをする。
- ◆これまでの活動を思い起こしながら、植物の成長と自分との関わりを振り返ることができるよう、働きかける。

生き物との関わりにおいて重要ポイント



あたらしい1年生にそだてかたをおしえてあげたいな。



よろこんでくれるといいな。



どんな花かわかるようにえをかこう。



もっとたくさんおひさまがあたる場所はどこかな。

もうすぐおはながさきそう!!



- ・ぼくの花が咲いたよ!
- ・わたしのはなは、もう少しかな。
- ・夏休みにも観察したいな。
- ・花が咲いたら、先生に写真を送るよ。



ハウセンカはさかなかったからかわりにおうちでコスモスをまいたよ。

- ・種ができたから、みんなで合わせて数えてみよう!
- ・わたしのはなは、花は咲いたけど、種はうまくとれなかったよ。
- ・50個も種が取れたよ。びっくり。
- ・観察カードもこんなにたくさんあるよ、並べてみよう。
- ・ぼくたちも、新しい1年生にプレゼントしたいな。
- ・喜んでもらえるように袋に入れて、お手紙と一緒に渡したいな。

単元で付けたい力

- 自分で選んだ植物を育てる活動を通して、それらは生命をもっていることや成長していることに気付く力
- 自分で選んだ植物を育てる活動を通して、それらの成長の様子に関心をもって働きかける力

探究のプロセスのエピソード



『これってオクラの芽?』

オクラの種をまいた児童が集まって、**発芽した芽を見比べて**、どれがオクラの芽かを考えています。花壇の土を使ったせいか雑草がたくさん混じっていて、どれがオクラの芽かが分かりませんでした。



『この芽(自分の鉢の芽)と この芽(図鑑の芽)同じ?』

友達と見比べてみてもなかなか分からないオクラの芽を、**デジタル図鑑を使って調べ**、自分の鉢の芽と比較していました。先生が、「見比べましょう」と言わなくても、自分たちの鉢が気になって仕方がない姿があります。自分が植える種の種類も、植え方も決めたからこそその姿でした。

『やっぱり、植え替える』

なかなか芽がでないオクラのメンバーは、悩んだ末に土を入れ替え、種をまき直すことにしました。「まき直すかどうかを悩む」というプロセスは植物との関わりを深めている子どもの姿です。学習指導要領にもある**「生き物への親しみをもち、大切にしようとする」**姿が実際の姿として現れています。

まき直す前には、「水が少なすぎたのかな」「深く種を埋めすぎたかな」などと、**結果から原因を考えようとする姿**も見られました。



『みんなの芽が出たよ』

最終的には、全員の芽が出て大喜びで夏休みに持って帰りました。全員の芽が出たのが6月の末だったので、オクラの実が食べられたのは夏休みに入ってしばらくたってからのことだったそうです。

③単元名 「がっこう だいすき」

◆学習の流れ	◆意識の流れ
<p>きっかけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動場は保育園よりずっと広がったね。いっぱい走りたいな。 ・学校の中にも、たくさんお部屋があるよ。 ・先生のお部屋はどこにあるのかな。
<p>小単元1 (4時間)+国語1時間 ともだちと がっこうを たんけんしよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の教科書には、楽器があるよ。何のお部屋かな。 ・お兄ちゃんの教室に行きたいな。 ・廊下は静かに歩けよ。 ・上級生がお勉強していたらじやまにならないようにしようね。 ・プールが大きい!早く入りたいな!! ・本がたくさんあるお部屋があったよ。 ・理科室には、がいこつがいたよ! <u>もう一回行きたいな。</u> ・見付けたものを忘れないようにメモを持っていこう!
<p>○<u>学校の施設について知っていることを出したり教科書を見たりして、みんなで行きたいところを決める。</u></p> <p>これまでの経験や既存の知識を十分に生かして、自己決定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> いろいろながっきがあるね。 じゆうちようにメモをするよ。 ねんちようさんのときにこうりゆうしたおねえさんはいるかな。
<p>○みんなで、学校探検をする。</p> <p>○校内で見付けたものや、出会った人のことを付箋に書いて、紹介し合う。</p> <p>とよしつには、とってもたくさんのほんがありました。</p> <p>りかしつは、どこだったかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見付けたものをメモしてきたよ。カードに書きたいな。 ・休み時間にも、探検したいな。 ・保健室には、けがの手当てをしてくれる先生がいたよ。 ・事務室や給食室にも先生がいるよ。 ・学校には、先生がたくさんいるね。どんなお仕事をしているのかな。
<p>○<u>もう一度行ってみたいところを決めて、友達と一緒に自由に探検をする。</u></p> <p>何度も対象と関わることで気づきの質が高まる。</p>	
<p>◆<u>園にどんな教室があったかや、入学してから行ってみたい場所を出し合う中で、小学校の中を探検してみたいという意欲を膨らませる。</u></p> <p>◆学校探検に行くことをイメージしながら、注意事項を確認し、板書する。</p> <p>◆見付けた場所や人、ものを付箋に書き、大きな校内配置図に貼りながら紹介し合う活動を通して、もう一度行きたい場所を決められるようにする。</p> <p>◆友達と相談しながら2回目に行きたい場所を決めて、探検に行けるようにする。</p>	

小単元2 (5時間)+国語1時間
がっこうにいるひとと なかよくなるろう

行ってみたい場所に何度も行くことで、自然と人とも関わり、興味が広がる。

- 学校探検で出会った人のことを振り返り、もっと話をしてみたい人と、聞きたいことを決める。
- 話を聞くときに気を付けることを確認し、聞きに出かける。
- 聞いてきたことや、見てきたものを絵や言葉で付箋に書いて、紹介カードに貼り、グループの友達と共有する。
- もっと聞いてみたいことや、知りたいことがないか確かめ、もう一度聞きに出かける。
- 新たに分かったことを紹介カードに付け足す。

- ◆学校探検で出会った人や、これからの学校生活で子どもとの関わりが多くなると予想する人の顔写真を掲示し、学校には様々な仕事をしている人がたくさんいることに気付くことができるようにする。

学びのプロセスを可視化することで、児童が自らの学びを自覚化する。



- ◆校内配置図で、話を聞きたい人がどこにいるのかを確認できるようにする。



- ◆入室の際や、話を聞くときに気を付けることを考え、グループで気を付けながら探検できるよう、働きかける。
- ◆話を聞いて分かったことを付箋に書き、紹介カードにまとめることで、自分たちが聞いてきたことが可視化できるようにし、達成感を感じられるようにする。
- ◆新たな疑問が出てきたら、生活科の時間以外にも聞きに行つてよいことを伝える。

ぶどうの「ぶ」ってどうやってかくのかな。

せんせいがすきっていついた、たべもののはをはろうかな。

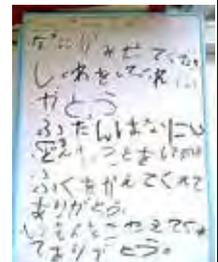


自由度のある学習環境の設定が子どもの主体的な学びを促す。



- ・図書室には、本のことを教えてくれる先生がいたよ。もっとお話を聞きたいな。
- ・校長先生のお部屋には、ソファがあったよ。座ってみたいな。
- ・保健室には、しんどくなった人が休むためのベッドがあったよ。他には、どんなものが置いてあるのかな。
- ・お部屋に入る時には、「失礼します。」って言おうね。
- ・聞きたいことを自由帳にメモしていこう。
- ・ぼくは、ホワイトボードに質問を書いていくよ。

こうようせんせいのおへやは、しゃんが いっぱいだ。



びょうきのひとがいないときにはなにをしていますか。



- ・給食の先生は、給食のメニューを考えるお仕事をしているんだって。どうやって考えているのかな。
- ・分かったことをカードに書いておこう。3つも書けたよ。
- ・お手紙を書いてプレゼントしに行きたいな。
- ・休み時間に、もう一回お話を聞きに行つてみよう。

小単元3 (3時間)+国語 1時間
がっこうで みつけたことを つたえよう

- 付箋や紹介カードを見ながら,どんなことを友達に紹介するかを確認する。
- お気に入りの場所や,仲良くなった人のことを紹介する。
- 友達の発表を聞いて,質問をしたり感想を伝えたりする。
- もっと知りたくなったことや,新たに話を聞きに行きたくなった人のことなどを友達と伝え合う。

◆これまでも活用してきた学校の教室配置図や紹介カード等を用いて,何度も探検してきたことを想起できるようにする。

◆児童から嬉しかったことや,感じたことの発言があれば板書し,学校は楽しくて安心できる場所であることが可視化できるようにする。

◆生活科の学習以外で見たり聞いたりしたことも紹介カードに付け加えてよいことを伝え,関心や意欲をもって毎日の学校生活を送ることができるよう,働きかける。

◆何度も学校探検をすることで,安心して学校生活を送ることができるようにする。

学校探検の目的や方法を教職員で共有しておくことが充実した探検につながる。



わかったことがいっぱいかけたよ。



- ・図書室の先生はとっても優しくったよ。
- ・面白そうな本がたくさんあったことを伝えたいね。
- ・用務員さんは,外で葉っぱのお掃除をしたり,壊れたものを直したりしてくれていることが分かったよ。
- ・校長先生が,「またいつでも来てね」って言ってくれて,うれしかったよ。また行ってみよう。
- ・英語の先生と仲良くなったよ。
- ・折り紙でプレゼントを作って持って行ったらとっても喜んでくれたよ。

おりがみでプレゼントをつくってきました。



- ・学校って楽しいね。
- ・上級生のお兄さんやお姉さんとも仲良くなりたいな。

単元で付けたい力

- 学校探検を通して,学校での生活は様々な人や施設と関わっていることに気付く力
- 学校探検を通して,学校生活を支えている人々や友達のことが分かるとともに,楽しく安心して遊びや生活をしようと思える力

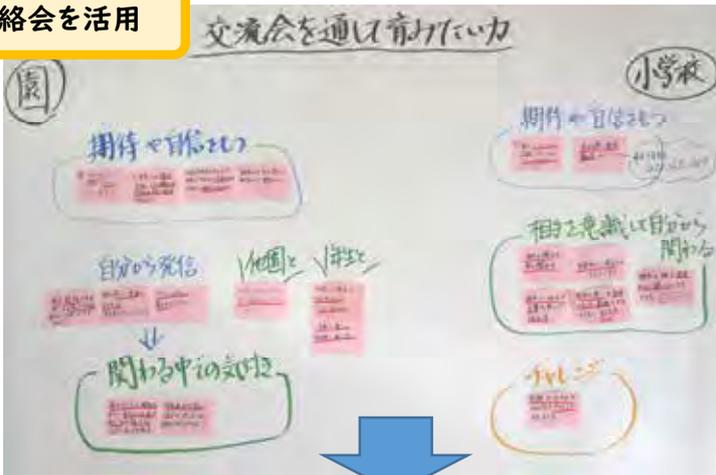
8. 子どもの主体性を大切にしたい、互恵性のある交流活動

① 交流活動の進め方 ねらいの設定から振り返りまで

ステップ① 「保育者と小学校教員の思いを共有」

モデル地域では、年間3回の交流活動を通しての「めざす子どもの姿」「育みたい力」を保育者と小学校教員が一緒になって話し合うところからスタートしました。

連絡会を活用



活動名	いっしょにあそぼう
実施月日	令和6年10月22日(火) (9:50~11:30)
参加者	うらちが保育園 年長組(25名)・4チーム (1名×4チーム) グループ番号カード 担任・保育士 年長保育員 年長組 9名、1名×2グループ (1名×5チーム) グループ番号カード 担任・保育士 春野北小学校 1年生1組 25名、(1名×25チーム) 担任・校長
実施場所	うらちが保育園 ホール
活動のねらい	幼児 ◎ (交流活動に対するねらい) 1年生と知り合い、ふれあいや交流を楽しむ。 ◎ (指導計画に基づくねらい) 1年生と交流を深めることで小学校生活への期待を高める。 児童 ◎ (教科等) 本時の目標(生活科) 年長さんとの遊びや交流を通して、ペアやグループのみんなの気持ちを大切にしながら関わろうとする。 ◎ (本時の評価規準) 【評価の観点】年長さんに喜んでほしいという思いをもち、楽しそうとしている。【主】
準備物	幼児 ・上履き (園に準備してほしいもの) セロハンテープ カラーマジック ビニールテープ オルガン ホワイトボード 磁石 空プログラムと校章を貼ります。 児童 ・名刺カード (児童用) → 自分の紙コップ折り機 ・上履き ・木筒 ・名前ペン ・年長さんへのプレゼント ・ハサミ ・色鉛筆 ・年長さんの名刺 教員 (学校) ・ カラーマジックペン ・ ビニールテープ ・ プログラム ・ 校章の歌詞 ・ 工作材料 ・ 両面テープ (園) ・ セロハンテープ ・ カラーマジックペン ・ ビニールテープ

「互いの思い」を語りましょう。
「子どもの姿」をもとにしましょう。



★交流活動の内容は、子どもの思いをもとにして決めることにしています。担任の繋がりが深まっていることで意見を言いやすい雰囲気があります。

★3回の交流を通して、同じメンバーで関わることを大切にしています。

★実際の計画書に幼児と児童それぞれのねらいを記載しています。

ステップ② 「子どもと一緒に交流活動でやってみたいことを考える」

どのような交流活動にしたいかを子どもと一緒に考えています。教師が全てを決めるのではなく、子どもが選択し、子どもが納得して決定することを大切にしています。



5歳児のしたいことから当日の内容を考える1年生



★5歳児のことを想像し、自分たちのこれまでの経験を思い出しながら、話し合っ内容を決めています。

ステップ③ 「当日の運営は子どもに任せる、先生は支援に徹する」

自分たちで決めた活動だからこそ、責任をもって取り組む姿が見られます。自己選択と自己決定、責任をもった行動が子どもの主体性を育むことにつながります。

第1回交流活動



★当日は、会場作りや司会等、1年生が自分たちで交流活動を運営しています。



★先生同士が繋がっていることで、交流活動の場でも安心感をもって自己発揮する子どもの姿が見られます。



1年生の書く文字をのぞき込む5歳児



5歳児の書く姿を見守る1年生

★その場の5歳児の気持ちを大切に、「名札を書いてあげる」という選択と、「5歳児が書くことを見守る」という選択をした1年生の姿がありました。



★5歳児が園で親しんでいる手遊びでリラックス。事前に先生同士で情報を共有し、1年生に伝えることで、自然と計画に組み込まれます。

★一緒におもちゃを作って遊びます。実際に遊ぶことで翌日園でも同じ遊びをする5歳児の姿がありました。



主体的に活動したからこそその充実感と次への期待

ステップ④ 「ねらいに立ち返って、子どもの姿で振り返る」

振り返りの際は、子どもの姿をもとにして語り合うことが重要です。ねらいが達成されていたか、環境構成や支援はどうであったかなどを視点にしましょう。県の保幼小連携アドバイザーを活用して外からの視点で評価してもらうことで、取組がより確かになります。



★モデル地区のアンケート調査より

「架け橋プログラムに取り組むことで自身の保育や授業に対する考え方や方法に変化がありましたか」の問いにおける肯定的な回答の背景として「アドバイザーの助言があったこと」をあげる回答が多数見られました。

視点を明確にした振り返りの実施

振り返りの視点(例)

- ① どのような育ちや学びが見られたか？
- ② ①の姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らし合わせると？
- ③ 子どもの姿はねらいを達成していたか？
- ④ 活動内容は子どもの体験や学びを生かし、主体的に取り組めるものであったか？
- ⑤ 援助や環境構成は適切であったか？



(※ 視点については例であり、どれか1つに絞って振り返りを実施することも考えられます。)

視点③ ねらいに基づいた 振り返りの進め方(例)

○ねらいに基づいた子どもの姿・育ち・環境構成・保育者や教師の援助の4つの観点で振り返る

【育ちや学びが見られた場面を付箋に記入します】

- ① 子どもの姿・・・黄色の付箋
- ② ①の姿から見られた子どもの育ちや学び・・・桃色の付箋
- ③ ①②につながった環境構成(学習環境)・・・青色の付箋
- ④ ①②につながった保育者や小学校教員の援助・・・緑色の付箋

1人の子どもの焦点をあて、何をどのようにしていたか具体的な姿を書きます。

①～④で1セット

1人3セット事前に記入します。

〇〇さん

5歳児に名札を書くかどうか尋ね、自分で書きたいと言った5歳児をそっと見守っていた。

5歳児の「自分でやりたいという思い」を大切にしようとする気持ち。また、相手の思いを聞く力。

自己紹介をした後で、名札を作成する場があったこと。その時間が十分に確保されていたこと。

保育者が子どもの思いを大切に、そっと見守るといった援助をしたこと。

協議の進め方の具体(例)

- ① 上記の付箋セットを協議が始まるまでに記入する。(模造紙にねらいや目標を記載しておく)
- ② 子どもの具体の姿をもとに育ちつつある力(資質・能力)を話し合う。

p.44「保育を見合っでの協議の充実」の実際の協議の進め方1・2を参考にしてください。

- ③ 子どもの具体の姿からねらいを達成できていたか、ねらいや内容は適切であったかなど話し合う。
- ④ 次回(次年度)の交流活動に向けて、ねらいや内容の在り方を検討する。

②1日入学

【活動例】 詳しい流れは活動案(p.41・42)へ

※掲載している例は、モデル地域において1年生が5歳児の思いをもとに自分たちで計画したものです。

◎学校探検



★地図をもとに行ってみたい場所をグループごとに相談しながら楽しんでいます。



★売店では、「何売りゆうが？」と質問する姿も。入学したら「買いに来てね」とやりとりを楽しんでいます。



★気になった理科室へ。授業中だった5年生も自然に受け入れています。学校全体で取組の目的を共有していることがポイントです。



★図書室では、本を楽しむ5歳児を急かすことなく、しばらく寄り添う1年生の姿がありました。

◎運動場での自由遊び



★園にはない遊具や広い校庭で自由に遊ぶ時間が、子どもの気持ちをさらに開放します。



◎5年生の歌・演奏



★外でたっぷり遊んだ後は、ゆったりと音楽鑑賞。来年関わることの多い5年生とも交流。迫力ある演奏や歌に思わず腰をあげて聴く5歳児の姿がありました。



◎1年生体験

★「べんきょうしたい」「タブレットをさわってみたい」などの5歳児の思いを事前に知った1年生が計画。自分の席に座る5歳児に寄り添い、タブレットの使い方などを教える姿がありました。



★1日入学を迎えるまでに2回の交流活動を通して、仲を深めてきている関係だからこそ安心して過ごすことができている。どのグループも楽しそうに活動に取り組んでいました。

◎終わりの会



★活動計画には「おみやげ」「お見送り」としか書かれていませんが、実際の姿では、自分の書いた手紙を読んで渡す1年生がいたり、5歳児の帰り道にアーチを作ったりするなどの自発的な姿がたくさん見られました。門を出るところまで見送る1年生の姿が印象的です。



交流活動を通して保育者や小学校教員が大切にしているポイント

- 事前に目的やねらい、内容の在り方について話し合い、共有（大人の信頼関係が子どもの安心へ）
- どちらかが計画書を作成するのではなく、共に作成。さらには全職員で取組の意義を共有（組織的に）
- 子どもの「やってみたい」を大切に、自己決定・自己選択ができる場の設定（大人のみで決めない）
- 子どもの有能性を信じ、当日は「子どもに任せる」（任せてもらえるからこそその責任感、そして自信へ）

③園どうしの交流活動

保幼小、縦のつながりも大切ですが、同じ小学校区内の幼児教育施設どうしのつながりもまた、子どもの育ちを考える際に重要なポイントとなります。



★5歳児がどの園でも共通して楽しんでいる遊びを取り入れ、まずはリラックス。声を出して体を動かすことで自然と緊張がほぐれ、あっという間に笑顔がたくさん見られました。



★就学前に5園で交流することで友達関係が広がります。園を越えて手紙のやり取りをする子どもも。小学校の先生からは入学してくる子どものコミュニケーション力の高さに驚く声もありました。

モデル地域では...



保育者どうしの横のつながりもまた、子どもの育ちに影響しそうですね

5園が集まっての5歳児の交流活動を年間2回計画しました。その他にも2園の中で連絡をとりあって4歳児の交流を計画するなど5歳児以外の交流活動も積極的に行っています。地域の文化展で、偶然出会ったときには、園を越えて手をつないで作品を見て回る5歳児の姿が見られるなど、就学に向けて友達関係が広まっている様子が見られました。

架け橋交流会「一年生ってすごい」

今日は東小学校一年生・春野平和保育園あお組さんとの交流会がありました。「うららかに来るが?」「一年生と一緒に遊べる」「〇〇ちゃんに会える」とワクワクしていた子どもたち。朝は、ドキドキして少し緊張した様子もありましたが、すぐにみんな笑顔に◎一年生やお組さんと一緒に、手遊びやじゃんけん列車を楽しんだり、紙コップの工作を楽しみました。昨年度まではグループでの活動でしたが、今年からは一年生とのペアでの活動になり、11月にある東小学校での交流会や1月の一日入学と一緒に過ごします。



東小学校の校歌を一年生が歌っていました



一年生の登場に拍手喝采で迎えます



楽しすぎる!!



くるくる紙コップ飛行機を作ったよ!
輪ゴムの使い方が難しかったけど、一年生が教えてくれたよ



『じゃんけん列車』はホールいっぱい「じゃんけんぽん」の音が響きました。最後まで勝ったのは、りっかさんでした。すごい!
『きりとりす』のゲームは、初めてだったけど、いろんな友だちと仲良く触れ合えて、笑い声がたくさん聞かれました!



一年生ありがとう! また一緒にあそぼうね!

令和6年10月22日 うららが保育園



「保護者へ発信」することで、就学前の不安の軽減につながります!!



モデル地区 保護者アンケートより

- ・小学校との連携や、周りの園との交流が企画されていて、子どもたちも楽しみにしているし、**大人も安心**します。
- ・小学生との関わりを通して**就学することへの期待感が高まっています**。園と学校が情報共有や連携をとって長い目で子どもたちを見てほしいのでこれからも続けてほしいです。

④交流活動計画

第 2 回 交 流 活 動 計 画

活動名	ねんちょうさんととつとなかよくなりた！『あきまつりだいさくせん』		
実施月日	令和 6 年 11 月 27 日（水）（9：50～11：30）		
参加者	うららか保育園 年長組 22 名（2 名×4 チーム 1 名×14 チーム）グループ番号①～⑱ 担任・園長・保育士 春野平和保育園 年長組 9 名，（2 名×2 チーム 1 名×5 チーム） グループ番号⑲～㉓ 担任・園長 春野東小学校 1 年 1 組 25 名，（1 名×25 チーム）担任・校長		
実施場所	春野東小学校 体育館		
活動のねらい	幼児	○（交流活動に対するねらい）小学校への訪問を楽しみにし、積極的に 1 年生に関わろうとする。 ○（指導計画に基づくねらい）1 年生と交流を深めることで小学校生活への期待を高める。	
	児童	○（教科等）本時の目標（生活科）年長さんの思いに寄り添って伝え方を工夫し、おまつりを一緒に楽しんでいる。 ○（本時の評価規準）【評価の観点】幼児の反応や状況に合わせて伝え方を変えたり、繰り返し伝えたりして、進んで交流しようとしている。【主】	
準備物 (持参物)	幼児	・名札カード・手提げ袋・上履き・どんぐり（1 人 10 個）	
	児童	・名札カード・各グループが作ったおもちゃ等店で使うもの・色のリボン	
	教師	・修理用の道具（セロハンテープ、ガムテープ、サランラップ、アルミホイル、ボンド等） ・オルガン ・CD デッキ ・CD ・ホワイトボード（2 台） ・長机 ・児童机、いす	

事前の学び (遊び・学習)	幼児	・当日、お買い物をするためにお金（どんぐり）を用意する。 ・なべなべそこぬけ、9 マス鬼ごっこの遊びを試みる。
	児童	・身近な秋のものを使ったおもちゃや工作を考え、園児に楽しんでもらえるように計画し、準備したり、手直しをしたりする。

<活動の展開>

幼児への支援等	時程	幼児・児童の活動	児童への支援等 (◆評価規準)	備考
○降車後に人数確認を行う。 ○靴を脱ぐ、上履きをはくなど一つ一つの身支度ができているか見守りながら声をかけ、体育館へ移動する。	9:50	・春野東小着 ・体育館に移動	○歓迎の気持ちでお迎えするように準備しておく。 (体育館で待機)	
○司会の話を静かに聞くことができるよう見守る。	10:00	1. 始めのあいさつ ・今日のめあてを確認する。	○児童が自分たちで進行できるように声かけする。	・グループは前回のペアを使って作る。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ㊦ あきのおみせでいっぱいいたのしもう。 いっしょにあそんでもっとすごくなかよくなろう。 </div> 2. 活動の確認 ・グループづくり（自己紹介・あいさつ） ・なべなべそこぬけ ・おもちゃまつり（前半） ・おもちゃまつり（後半） ・お楽しみタイム ・ふりかえり	○交流の見通しがもてるようにプログラムと会場図・めあてを掲示する。 ○補足があれば伝える。	
○個々の様子を見守り、必要に応じてことばをかけた後、一緒に自己紹介を行ったりするようにする。	10:05	3. グループづくり（自己紹介・あいさつ）	○自分のペアの年長児を連れて並ばせる。名前を確認したり、挨拶を交わしたりして関わっている児童を認める。	

<p>○活動に入れない幼児がいたら、そばで話を聞きながら、安心して活動に入れるようにする。</p>	10:10	<p>4. 手遊び (なべなべそこぬけ) ペアと⇒グループで</p>	<p>○ペアの年長児と楽しめるように声をかけ、見守る。 ○触れ合いなどが苦手な児童の近くで一緒に楽しく活動を盛り上げる。</p>	
<p>○安全面に配慮する。 ○人数確認を行う。</p> <p>○子どもの様子に応じて、前半・後半チームのメンバーや活動の流れなどを個々に伝え不安のないようにする。</p> <p>○子どもと児童の関わりを見守りながら、困っているときは必要に応じて言葉を添える。</p> <p>○楽しい気持ちに共感していく。</p> <p>○初めての場所だと緊張する園児もおり、楽しめるように積極的に声をかける。</p>	10:20	<p>5. おまつり交流をする</p> <p>(前半) 10:20～10:35 準備・引継ぎ等 (10分) (後半) 10:45～11:00 ★お楽しみタイム (10分) (園児がもう一度やりたいことを選択して、楽しむ。)</p> <div data-bbox="507 779 930 1283" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【お祭りの屋台】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや ① 9マスおにごっこ ② さかなつり ・こうさくや (松ぼっくりのけん玉) ・あきクイズや ・お店や (食べ物、アクセサリ等販売) <p>※途中お金が足りなくなったら どんぐり銀行でおろしてくる。</p> </div>	<p>○先にお店を担当するチームは、ペアの年長児にお店や仕事の説明をする。自信がない児童には励ますように前向きな合図や指示をしながらサポートする。園児に、後からお店を回ることができることを伝えておく。</p> <p>○先に店を回るチームは、ペアの年長児にどの店から回りたか聞いたりして準備をするようにする。</p> <p>◆幼児の反応や状況に合わせて伝え方や内容を変えたり、繰り返し伝えたりして、一緒におまつりを楽しんでいる。</p> <p style="text-align: center;">【主】</p> <p>○年長児の立場になって一緒に楽しんだり、困り感に寄り添ったりしている児童を評価する。</p> <p>○児童、年長児に前後半交代、終わりの合図は音楽で知らせる。</p>	<p>・修理用の準備物は多めに用意しておく。</p> <p>・全体の準備が整ったことを確認して始める。</p>
<p>○子どもの気持ちに共感しながら次回の交流に期待が高まるようにする。</p>	11:10	<p>6. ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームで ・1年生から ・年長さんから 	<p>○「楽しかった」「嬉しかった」だけの振り返りにならないように「何が」「どうだったのか」を答えられるように声をかける。</p> <p>○友達の感想に、共感しながら一生懸命に聞く姿を認める。</p>	<p>・感想発表は、まずペア同士で楽しかったこと等を1年生が聞きながら会話し、その後みんなに発表するようにする。</p>
<p>○静かに話を聞くことができるように声をかける。</p>	11:20	<p>7. 終わりのあいさつ 帰りの準備をする</p>	<p>○代表者が自信をもって言えるように促す。</p>	
<p>○感謝の気持ちをこめて、気持ちのよいあいさつができるようにする。</p>	11:30	<p>8. お見送りをする (体育館)</p>	<p>○お見送りをすることで、最後まで触れ合えるようにする。</p> <p>○名前を呼んでいる児童を認める。</p>	

<p>事後の学び (遊び・学習)</p>	<p>幼児</p>	<p>・仲良くなった1年生との交流を振り返り、また一緒に遊びたいという思いや一緒に遊んだ遊びをもう一度園でやってみたいという気持ちへとつなげていく。</p>
	<p>児童</p>	<p>・交流活動の経験の中での幼児の様子や感想を振り返り、自分や友達の頑張りや伸びに気づき、お互いに喜び合ったり、褒め合ったりする。</p>

第 3 回 交 流 活 動 計 画

活動名		ようこそ「もうすぐ1年生」(1日入学)
実施月日		令和7年1月24日(金)(9:20~11:30)
参加者		うららか保育園 22名, 春野平和保育園 9名, へいわ幼稚園 15名, 春野学園 9名 春野中央保育園 3名, 杉の子せと幼稚園 1名, 各園担任 等 春野東小学校 1年生 49名, 各担任
実施場所		春野東小学校 体育館, 1年教室 他
活動のねらい	幼児	○もうすぐ1年生になるという自覚をもち, 小学校生活への期待を高める。 ○小学校の校舎の中を見たり, 学校生活を体験したりすることで, 1年生になりたいという思いを高める。
	児童	○本時の目標(生活科)年長児に喜んでもらいたいという思いをもち, 学校のことを分かりやすく伝えようとしている。 (本時の評価規準)【評価の観点】 ・ペアの年長さんの思いや願いを聞きながら, 上級生として優しく関わろうとしている。【主】 ・年長さんに喜んでもらいたいという思いをもち, 進んで関わろうとしている。【主】
準備物 (持参物)	幼児	・上履き ・荷物を入れる袋 ・名札カード ・カラー帽子(鬼ごっこをしたいときに使う)
	児童	・名札カード(児童用) ・学校探検の地図 ・その他教室での交流で使用するもの

事前の学び (遊び・学習)	幼児	・一日入学でどんなことをしたいのかを園で話し合い, 一日入学を楽しみにする。
	児童	・年長さんにどんな気持ちになってほしいかを想像しながら準備を重ね, 自分たちで計画を立てて, 年長さんをおもてなしできるようにする。

<活動の展開>

幼児への支援等	時程	幼児・児童の活動	児童への支援等 (◆評価規準)	備考
○期待感をもちながら話を聞いたり, 活動に参加したりできるように声をかける。	9:00	・小学校に到着する ・体育館に移動 ・整列して並ぶ	○年長さんをサポートする気持ちを大切にしながら, 主体的に活動できるように声をかける。	園ごとに並んでください。
○司会の話静静地に聞くことができるよう見守る。 ○安心して活動に参加できるよう, 声をかける。 ○元気よく声が出せるように, 声をかける。	9:20	1. 交流①(体育館) ①始めのあいさつ ②園児からあいさつ・歌	○司会やあいさつ係の児童が自分たちで進んで進行できるように声をかける。 ○時間を見て行動できるように, ホワイトボードにしめておく。	
○一年生のお話をよく聞いて, 楽しく安全に探検ができるように声をかける。	9:30	③学校探検(校舎内) (各グループ1年生2人程度) ・活動の確認をする ・グループ作り ・お互いの名前の確認 ・グループごとに探検する	○年長さんの希望を聞きながら, 安全に, マナーを守って探検ができるように, 活動の仕方を確認する。 ◆ペアの年長さんの思いや願いを聞きながら, 上級生として優しく関わろうとしている。【行動・発言】	

	10:15	・体育館に集合する ・トイレの確認をする	○次の活動の見通しをもって、時間を気にしながら行動できるように声をかける。	
○安全に気を付けて遊ぶように声をかける。	10:25	2. 運動場で遊ぶ。 (休み時間)	○ペアの年長さんがしたいことを優先して、遊べるよう声をかける。	他の学年の児童も遊んでいます。見守りをお願いします。
	10:45	・体育館に集合する。 ・トイレに行っておく。	○時間を見て行動できるように意識付けを行う。	
○一年生と一緒に、楽しく鑑賞できるように見守る。	10:55	3. 5年生の合奏を鑑賞する。(体育館)	○年長さんと一緒に、楽しく鑑賞できるように見守る。	
	11:00			
○一年生の説明をよく聞いて、仲良く活動できるように声をかける。 ○苦手な活動がある時には、無理にしないでよいことを伝え、楽しく過ごせるように手助けをする。	11:05	4. 交流② (各教室) 1-1 ・タブレット ・ひらがな ・おみやげ 1-2 ・ひらがな ・おえかき ・じゃんけん	○年長さんの気持ちを聞きながら、様子を見て活動の内容を変えたり、手助けをしたりしてよいことを確認する。 ◆年長さんに喜んでもらいたいという思いをもち、進んで関わろうとしている。 【行動・発言】	
	11:25			
○感謝の気持ちをこめて、気持ちのよい挨拶ができるようにする。	11:25	5. 終わりの会 (各教室) ・感想を言い合う ・終わりの言葉 ・帰る準備をする ・お見送りをする	○元気よく、心を込めて挨拶をしている児童や、仲良くなった友達の名前を呼んで挨拶をしている児童を認める。	各教室から体育館玄関まで一緒に移動し、お見送りをします。
	11:30	・小学校発		

事後の学び (遊び・学習)	幼児	・仲良くなった1年生との交流や、学級での活動を振り返り、早く1年生になりたいという思いや、小学校生活への期待をもって過ごせるようにする。
	児童	・交流活動の経験の中での幼児の様子や感想を振り返り、自分や友達の頑張りや成長に気付くことができるようにする。

※ 第1回の交流活動計画も幼保支援課のホームページからダウンロード可能です。

ぜひご活用ください。

9. 互いの教育の理解を図る研修会

① [互いの教育の理解] ～保育を見合っの園内研修～

【目的】 架け橋期の子どもの育ちを、保育者と小学校教員が子どもの姿をもとに語り合うことで、互いの教育への理解を深め、双方の教育のさらなる質の向上につなげていくことが大切です。

【ポイント】 具体の「子どもの姿」をもとに、語り合いを通して「育ち」を検討

【準備する物】 模造紙、付箋(4色)、サインペン、カラーペン、視点メモ、「資質・能力のつながり」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」参考資料

【所要時間・人数等】 参観:90分程度 協議:1時間半程度 人数:1グループ5人程度

◆前日までに

- ① 視点メモ、各参考資料を、幼保支援課 HP よりダウンロードし、印刷する。(p.45 参照)
- ② 小学校教員は、保育参観の前に保育を見る視点を学んで園内研修に参加するとよい。

重要



小学校教員のなかには、保育の何をしたらよいのか分からない方もいるのでは？
子どもが遊んでいる姿をどのように見るか？「ただ楽しそうに遊んでいる」と見るのか、「何を楽しんでいるのだろうか？」「何を実現しようとしているのだろうか？」と見るかで、見える子どもの姿が変わってきます。本資料についても幼保支援課 HP でダウンロード可能です。説明文も付いているので、事前に小学校で学んでおくこともできます。

「保育を見る視点」
資料の紹介(抜粋)

保育を見る視点

～小学校教員・保育者向け～

次のような視点で子供たちの姿を見ていきましょう

例えば・・・

- ★何を楽しんでいたのか。
- ★何に興味や関心をもっていたのか。
- ★こだわっていたこと、その意味は・・・
- ★何を実現しようとしていたのか。
- ★何を感じていたのか。
- ★戸惑っていたことやためらっていたことは・・・
- ★友達とどのような関わりが見られたか。
- ★自分(保育者)はどのように関わっていたのか。 など



どのような経験をしているでしょう(育とうとしているか)

遊びを通した総合的な指導 ～ものを転がして遊ぶことを楽しむ～

★様々な材質、素材で試す ★転がり方(厚膜・回転など)に関する発見

- ★友達と関わる
- ★順番にする
- ★意見の対立と克服
- ★片付けをする
- ★互いに観察する
- ★アイデアを出し合う
- ★友達に話す
- ★友だちに説明する



保育者は、子供の知的好奇心、興味や関心を喚起し、子供と「もの」や「人」(状況)との関わりがより豊かになるように環境を構成し、援助していく。

★幼児期の遊びの中には、小学校教育以降の資質・能力の基礎が満載です。

◆当日の朝

- 当日参加する小学校教員は、保育参観 15分程度前に集合し、園長等(担任は保育中)から、説明を受ける。
[説明内容] ・昨日までの子どもの様子 ・視点メモの書き方 ・日案の見方 等



※ 遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”の動画コンテンツ(文部科学省)を視聴することもおすすめです。

動画はこちらから



◆協議が始まる前に

○ 視点メモを参考に、3色の付箋に子どもの姿等をネームペンで書く。(1人3色×3セット)

〔付箋〕①黄色:ねらい(目標)に基づいた子どもの姿

②桃色:①の姿から推し量った子どもの内面(楽しんでいることや経験していること)

③青色:①②につながった環境構成や保育者の援助

1人の子どもに
焦点をあて、何を
どのようにしてい
たかなど具体的
に姿を書く。

5
歳児
の
例

Aちゃんが、外のテ
ブルの上に細かな砂を
集めて、息を吹きかけ、
その変化を見ては、別
の位置から吹きかけ、そ
の変化をまた見ていた。
強く吹いたり優しく吹
いたりもしていた。

吹きつける空気の
量や角度、勢いなど
で、砂の形が変化す
ることを楽しんでい
る。

じっくりと試すこと
ができる場(ちょう
どよいテーブル)が
砂場の近くに用意
されていた。

参観中に視点メモに記録を残して
おくと整理しやすいですね



◆協議の進め方



司会者と記録者(模造紙へのまとめ役)は、事前に進め方の打ち合わせをすることをオススメします

1.①の子どもの姿と②の内面の付箋を出しながら伝え合い、遊びや内面(育ち)でグルーピングし、タイトルをつけて整理する。その際、桃色の付箋(内面)については、そこから「どのような力が育ちつつあるか」を参加者で検討することが重要。検討したことを付箋の近くに書き加えるとよい。

2.「どのような力が育ちつつあるか」を検討したら、それらの力を「3つの資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に捉える。「試行錯誤する力」「何度もチャレンジする力」「思考力の芽生え」「協同性」などキーワードを模造紙に書き加えるとよい。

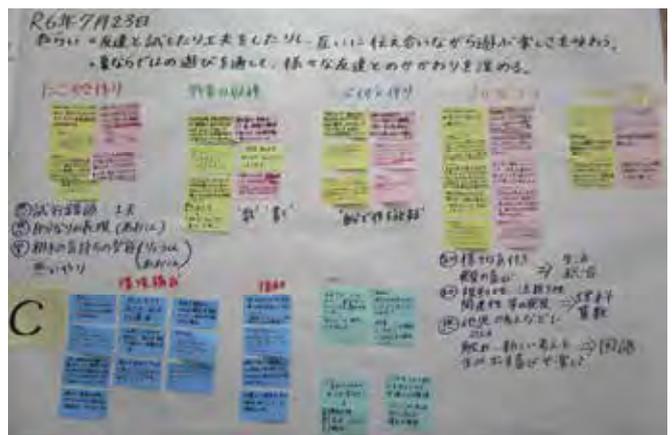
さらに、小学校教員から今日の子どもの姿から見てきた力や経験は、小学校教育でどのように生かすことができるか、具体的な場面をあげて話してもらおうとつながりがより見えてくる。

3.2の育ちにつながった環境構成や保育者の援助(青色の付箋)を出し合い、子どもの姿がねらいにせまるものであったかを検討する。今日の子どもの姿とねらいにズレがある場合は、明日の保育に向けて、ねらいに加筆修正を加えるとよい。

4.検討した「明日のねらい」に向けて、さらにどのような環境構成や保育者の援助があるとよいかを付箋(緑色)に書き、参加者で共有する。初めて協議を一緒にする場合は、感想を伝えたり、疑問に感じたことを尋ねてみたりすることもするとよい。

5.協議内容を他のグループに説明するなどし、各グループ協議内容を共有する。

6.アドバイザーに、本日の保育や幼児期の遊びを通しての学びについて15分程度話してもらう。



【資質・能力を視点に協議を進めた場合】

複写紙イメージ図【例】

【本日のねらい】

ねらいの代案等があった場合は、加筆・修正をする (資・能)

明日へつなげるために

例 体育科 1・2年生 領域「ゲーム」
 思考力・判断力・表現力 等

「簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること」が内容として示されていることと関連。
 (子どもの姿の例)
 ・鬼遊びで、少人数で連携して相手(鬼)をかわしたり、走り抜けたりする行い方について、動作や言葉で友達に伝える。

実際の協議の際に、幼児期の遊びの中の学びの姿(経験や育ちつつある力)について例で示しているような内容を小学校教員が伝えるとより分かりやすいです。

各種参考資料

【視点メモ】

【○○プロック】 公認保育 ○○保育所 (5歳児)

研修目標:

① 園児一人ひとりの個性・能力を伸ばし、園児一人ひとりの成長を促すこと【目的】

② 園児一人ひとりの個性・能力を伸ばし、園児一人ひとりの成長を促すこと【目的】

③ 園児一人ひとりの個性・能力を伸ばし、園児一人ひとりの成長を促すこと【目的】

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

① 健康な心と体
 ② 学びの意欲
 ③ 運動能力
 ④ 生活習慣・社会生活の能力
 ⑤ 社会生活との関わり
 ⑥ 表現力の育成
 ⑦ 自然との関わり・生命尊重
 ⑧ 言葉の関わり
 ⑨ 表現による伝え合い
 ⑩ 遊びの関わりと表現

【幼児教育において育みたい資質・能力】

幼児教育において育みたい資質・能力の整理

小学校
 知識・技能
 思考力・判断力・表現力等
 学びに向かう力・人間性等

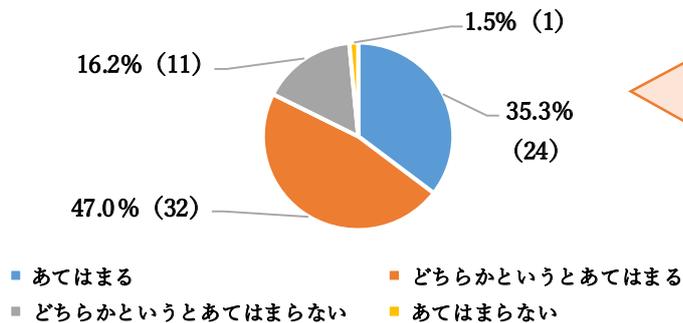
幼児教育
 運動能力
 生活習慣・社会生活の能力
 表現力の育成
 自然との関わり・生命尊重
 言葉の関わり
 表現による伝え合い
 遊びの関わりと表現

上記の資料は、幼保支援課 HP からダウンロードできます。

他にも、保育者が小学1年生の生活科の授業などを参観し、その後の協議に参加することで、小学校で大切にしていることが分かり、幼児教育をさらに豊かにしていくことにつながります

園や小学校において、架け橋プログラムに取り組むことで自身の保育や授業に対する考え方や方法に変化がありましたか。

★モデル校区の保育者・教員アンケート結果より



「保育や授業に対する考え方や方法に変化があった」と回答した先生が、架け橋期以外の先生も含め、80%を超えています。特に小学校側の変化の要因としてあがっていたのが、「園の公開保育に協議まで参加したこと」でした。

② 【保幼小連絡会Ⅰ】～秋の自然物を使った遊び～

【目的】 保幼小が共通の視点で子どもの姿を話し合うことで、そこで育まれつつある資質・能力を互いに知り合い、各施設の教育に生かせるようにする。

【ポイント】・保幼小の類似点や相違点等の気づきやから教材研究につなげる。
・双方のねらいや目標を知る。複数園の場合は、年間計画から取りまとめて使う。

【準備する物】グループ：模造紙1枚、カラーマジックペン、個人：付箋4色（3セット）、ネームペン

【所要時間・人数等】60分程度 ・1グループ 5、6人

◆テーマ 「秋の自然物を使った遊び」

◆始める前に 模造紙の上に幼児教育施設のねらいを、下に小学校の目標を記載しておく。

◆進め

1. 幼児教育施設のねらいと小学校の目標を確認する。

子どもの遊びの写真や教科書
を見せ合うのもいいですね

2. 進め方を説明し、4色の付箋にネームペンで書く。(1人4色×3セット程度)

〔付箋〕①黄色：ねらい(目標)に基づいた子どもの姿 ②桃色：①の姿から育まれつつある力(資質・能力)
③青色：①②につながった環境構成(学習環境) ④緑色：①②につながった先生の援助(支援)

5
歳児の
例

一緒に作ったどんぐりコースで「なんでこっちはっかり行くが」と言い、友達と直し始めた。

一つの目的に向かって、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、一緒に達成しようとする。

作りたいものがじっくりと作れる素材や場・時間があつた。

保育者は友達のやり取りを聞きながら、近くで見守っていた。

3. 幼児教育施設から付箋の内容に言葉を足しながら模造紙に貼る。似た内容は同じところに貼ったり、発言内容を追記したり、グルーピングしタイトルを付けたりして、可視化しながら進める。幼児教育施設が出し終わったら、小学校が同じようにしていく。

4. 全ての付箋を出したら、類似点や相違点を見て、つなげたり追記したりする。



5. 保幼小が、それぞれで大切にしていることを聞き合う。

6. 今後の「秋の自然物を使った遊び」について、小学校は幼児教育の経験を生かして授業をどのように工夫していきたいか、幼児教育施設は、小学校を見通してどのような工夫ができそうか(注：小学校の前倒しにならないように)出し合う。(それぞれが数分相談し合って出し合うのもよい)

7. それぞれの指導計画に追記する。



③ [保幼小連絡会Ⅱ]～幼児期の遊びを通した学びと教科とのつながり～

【目的】 幼児期の数量や図形などへの関心・感覚と小学校算数科におけるつながりを子どもの姿を通して共有し、互いの実践に生かせるようにする。

【ポイント】 園での経験と1年生算数科の単元とのつながりを見える化し、実践につなげる。

【準備物】 グループ: 模造紙1枚、付箋、カラーマジックペン、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(数量や図形、標識や文字への関心・感覚)」の資料
個人: 付箋4色、ネームペン、1年生算数科(18単元)の教科書のコピー等

【所要時間・人数等】 60分～90分半程度、1グループ5、6人

◆始める前に 各園ごとに、子どもの姿を4色の付箋に書く。(1人4色×3セット程度)

- 【付箋】 ①黄色: 数量・図形に関係のある遊びや活動につながる子どもの姿
②桃色: ①の姿から経験していることや育ちつつある力(資質・能力)
③青色: ①②につながった環境構成 ④緑色: ①②につながった保育者の援助(支援)

◆進め方

5
歳児
の
例

製作活動で、今ある牛乳パックの数と使いたい人の数を比べていた。

数を比べる力

使いたいときに、自由に使えるように牛乳パックが用意されている。

誰が牛乳パックを何個ほしいのかを一緒に確認した。

1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領等を読み合う。

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(数量や図形、標識や文字への関心・感覚)や5領域「環境」の内容「(9)日常生活の中で数量や図形等に関心をもつ」の解説部分を参加者で読み合い、ねらい等を確認する。

2. 園での遊びや生活の中で数量や図形に関する育ちが見られている事例を出し合う。

- (1) 事前に記入した①子どもの姿(黄色)と②育ちつつある力(桃色)の付箋をセットで話しながら出す。
(2) 育ちつつある力の付箋をもとに、グルーピングする。(大きさや長さの比較など名前をつけてまとめるとよい)
※数量や図形に関すること以外にも「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関係している姿も確認する。(協同性、思考力の芽生え等)
(3) 子どもの姿や育ちにつながる③環境構成(青色)と④援助(緑色)の付箋を出す。

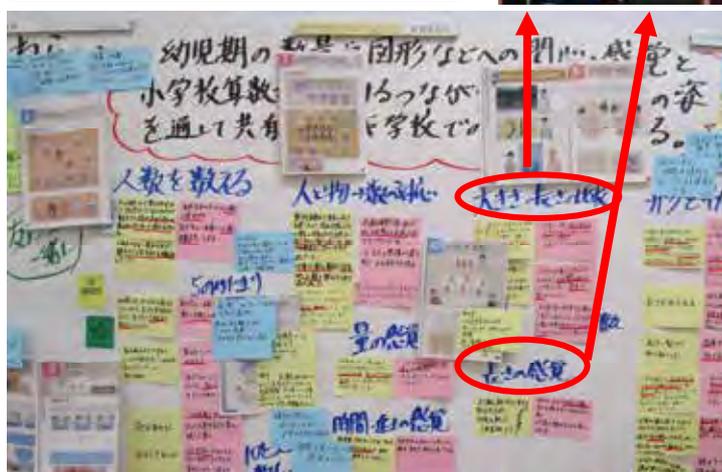
遊びの中での大きさ長さの比較や長さの感覚の体験が、小学校算数科の単元「どちらがながい」につながっていることなどが見えてきました。

小学校教員

3. 1年生の算数科の単元と幼児期の経験をつなげる。

・グルーピングした付箋のまとまりに小学校算数科の単元カード(教科書のコピー)を貼っていく。

4. 模造紙をもとに、学びのつながりについて気付いたことや今後の実践につなげていきたいことを交流する。



下記①～④について、3～4 セット付箋に書く ※見やすいようにネームペンで記入

- ・遊びや生活の中で、数量や図形などに親しむ姿
- ・遊びや生活の中で、自らの必要感に基づき、数量や図形を活用する姿 等

※記載する際には、下記の資料を参考にすることも考えられます。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」の数量・図形の部分

『保育所保育指針解説』P238 ⑨日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ

『認定こども園教育・保育要領解説』P267 (9)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ

① 遊びや生活の中でどんなことをしていたでしょう。

【黄色の付箋】

【桃色】の根拠となる姿

具体的(動き、表情、道具の使い方等)にどのような姿だったのか。

ピザ屋さんごっこで、3歳児さんにピザを作ってもらおうと、3歳児クラスに行って人数を数え、その数に合ったピザを、友達と一緒に確認しながら作っていた。

② ①の姿から

どんな経験をしているのでしょうか。どのような学びをしているのでしょうか。

【桃色の付箋】

表面に表れた行為【黄色】から、何を体験しているのか、どんな学びをしているのか、自分なりに子どもの内面を推し量ってみましょう。

友達と一緒に人数を確認する。

3歳児の人数とピザの数を合わせる。

※上記のように、1つの事実に対して2つの内面が考えられる場合は、2枚の付箋に書き分けてください。

③ ①の姿につながった環境構成(場の構成・材料・もの)【青色の付箋】

④ 保育者の援助【緑色の付箋】

連絡会の時間に限りがあるときは、この資料を参考に、事前に遊びや生活の中での実際の子どもの姿を付箋に記入しておくワークがスムーズに進みます。



ワークシートをアレンジして活用

トピックを「数量や図形への関心・感覚」から「言葉による伝え合い」に変更して、遊びや生活の中で見られた幼児の姿と、国語科「話す・聞く」領域における学習内容とをつなげて検討することも可能です。「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を視点に、子どもの姿を通して互いの理解を深めることができます。

文部科学省が発行している「**幼児教育と小学校教育がつながってどうということ？(幼児教育及び小学校教育関係者向けの参考資料)**」では各教科ごとに幼児期の遊びを通じた学びと各教科等の学習とのつながり等が解説されています。ぜひご活用ください。



④〔保幼小連絡会Ⅲ〕～保育・授業実践から生まれてくる課題意識をもとに～

【目的】架け橋期のカリキュラムを実践するなかで生まれてくる悩みについて、保育者と小学校教師が一緒に話すことで、校区内で大切にしたいことを共有し、実践の質を高める。

【ポイント】・カリキュラムをもとにして実践する中で生まれてくる悩みごとをトピックにする。
・「キーワード」を中心にしてマッピングする。相手の意見を否定しない。

【準備する物】グループ：模造紙1枚、カラーマジックペン

【所要時間・人数等】・60分程度 ・1グループ5、6人

◆テーマ 「主体性とは？」(校区内の実態に合わせて設定する)

◆始める前に 模造紙の真ん中にキーワードを書く。司会者と記録者を決める。

◆進め方

1. キーワードである「主体性」からイメージすることを自由に発言し、マップを広げていく。
2. 司会者は、出てきた意見をもとに、「具体的にはどういう姿？」など、考えをより深めるための問い返しをする。記録者は出てきた考えを線でつなぎながらさらにマップを広げる。
3. 話し合いが進んでいく過程で出た意見をもとに、他の参加者にも「〇〇についてどう思うか」などと意見を促す。
4. テーマが「主体性」のような概念的な場合は、実際の保育や授業ではどういった姿が見られるか、どのように環境構成や援助を行っているかなどの具体を問う。
5. 答えを1つに絞ることが目的ではないため、必ずしもまとめる必要はない。また、テーマをもとにそれぞれの参加者が自身の実践を振り返ることが大切であるため、話し合いを行っての感想を交流することも考えられる。その際、例えば「明日からの実践に活かしてみたいと思ったこと」などテーマを決めて振り返るとよい。



マッピングのように考えを広げたいときや参加者自身の思いを自由に出してほしいときは、安心して話せる場をつくるのが何よりも重要です。写真のように笑顔で話せる雰囲気をつくるために、話し合う前にアイスブレイクとして簡単なゲームを取り入れてみることもいいですね。



⑤ [保幼小連絡会Ⅳ]～架け橋期のカリキュラムを使った振り返り～

【目的】 カリキュラムに重なる具体的な子どもの姿を共有する中で、育ちを捉えたり、育ちにつながる環境構成や保育者・小学校教諭の援助を確認したりする。

【ポイント】 ・振り返るときの視点を決めておく。
・振り返る中で、子どもの実態に合っていないときはカリキュラムを修正していく。

【準備物】 カリキュラムの拡大コピー（可能なら）、付箋・カラーマジックペン、付箋4色（3セット）ネームペン

【所要時間・人数等】 30分程度、1グループ5、6人程度

◆テーマ 「9～12月までの子どもの姿の振り返り」

◆始める前に

カリキュラムの「めざす子どもの姿」や「遊びや学びのプロセスで大切にしたい経験」等から振り返って、重なる子どもの姿を（黄色）、育ちつつある力（桃色）とそれにつながる環境構成と援助（青色と緑色）を1人3セットで書く。

◆進め方

1. 事前に記入した付箋を順番に説明しながら、カリキュラムに貼っていく。
・園と小学校のカリキュラム双方で順に行う。
2. 付箋を貼ったカリキュラムをもとに、振り返って気が付いたことや今後の実践につなげていきたいことを交流する。
・付け足しや内容変更など修正したい点があれば、赤字で書き込む。



期間ごとに振り返ると、修正に生かします。（今回の振り返りはココ）

春野東小学校区では、振り返りの視点を、探究することを楽しむ（園）・探究する（小学校）の子ども姿で振り返りました。

庭でカタツムリを発見。図鑑で調べ、餌になりそうな葉や花を食べさせようと飼育かごに入れるが殻から出てこない。「なんでやろう。水は？」飼育かごに水を入れると殻から頭を出す。

【育ちつつある力】
不思議に思う・考える・工夫する
思いついたことをやってみる

【環境構成】
図鑑・飼育ケースの用意
より見やすくするために、途中からカタツムリの入れ物をペットボトルに変更

【保育者の援助】
・自分達で用意できる餌があることに気付けるような言葉がけ
・中がよく見えるようペットボトルを提案

春野東小学校区では、振り返りの視点を、探究することを楽しむ（園）・探究する（小学校）の子ども姿で振り返りました。

年度末には、1年間カリキュラムを活用しての成果や課題などを出し合い、次年度に向けてカリキュラムを見直していきましょう。カリキュラムの見直しは、毎年の振り返りを残しておき、2～3年程度で見直していくのもよいでしょう。

10. 幼保支援課 HP 保幼小連携・接続に係る内容の紹介

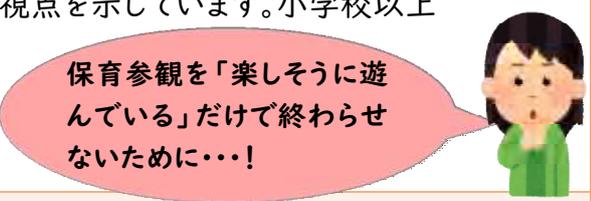
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311601/>

- ① 高知県幼保支援課ホームページを開く。
- ② 下にスクロールし、「幼児教育」カテゴリーにある『架け橋プログラム』または『保幼小連携・接続推進支援事業』をクリックする。



架け橋プログラム	
1 架け橋プログラム DVD 全編	モデル地域の取組を映像でまとめたものです。 子供をまんやかにした話し合いを通して学びをつなぐ 『架け橋プログラムの取組～架け橋期の教育の充実に向けて～』
1 架け橋期のカリキュラム	モデル地域である春野東小学校区の「架け橋期のカリキュラム」です。
2 めざす子ども像	モデル地域である春野東小学校区の「めざす子ども像」です。
3 事例集	モデル地域である春野東小学校区の「事例集」です。
4 架け橋プログラムの進め方のポイント	架け橋プログラムをどのように実践していくのか、ポイントをまとめています。
5 保幼小連携接続 (架け橋プログラム) 年間計画	子どもの姿をまんやかにして話し合う会を、現在、実践されている活動をもとに、年間の見通しをもって計画し、実践していくための、参考としてご覧ください。



保幼小連携・接続推進支援事業	
1 保育を見る視点	子どもや保育者の見方・考え方の視点を示しています。小学校以上の教職員が、保育を参観したり、保育者体験を行ったりする前に、この資料をご活用ください。 
2 幼小連携・接続 交流活動案	子どもの主体性を大切に、互惠性のある交流活動による活動案です。活動計画の作成や事前・事後の打合せにご活用ください。
3 スタートカリキュラム	スタートカリキュラムは、保育所・幼稚園等の遊びや生活を通じた学びと育ちを基盤として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を作り出していくための小学校入学当初のカリキュラムです。組織的・計画的にスタートカリキュラムを実践していくための資料を紹介しています。
4 チェックシート	スタートカリキュラム(小学1年生)、保育参観(5歳児)と協議、授業参観(小学1年生)と協議の視点を明確にするために活用するチェックシートです。



学校経営計画でも
活用できます